



**Nissan Chemical**  
CORPORATION

## 日産化学株式会社

2021年3月期 決算説明会

説明者

代表取締役 取締役社長 COO 八木晋介

取締役副社長 CFO 宮崎純一

2021年5月14日

## 会計方針の変更

1.方針の変更: 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用

2.適用時期: 2021年4月1日より

3.方針変更に伴うPL、BSへの主な影響:

(1) 代理人取引

(主たる適用セグメント) 化学品、農業化学品、卸売

(適用後) 売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)

(2021年度予想PLへの想定影響額) 売上高、売上原価がそれぞれ446億円(本体23億円、卸売423億円)減少  
各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

(主たる適用セグメント) 農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)

(適用前)(2020年度まで) MSD社\*1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月、に計上

(適用後)(2021年度より) MSD社\*1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、  
10-12月売上高見合を翌年2月、に計上

\*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の  
MSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

(主たる適用セグメント) 農業化学品

(適用後) 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上)

適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q増加、上期増加、下期減少、年間なし、の傾向  
(2021年度BSへの想定影響額)

2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で21億円減少

(適用前)(2020年度) 2019農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上

(適用後)(2020年度) 上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き21億円追加計上

2

宮崎: 宮崎です。よろしくお願いたします。

決算内容の説明に入る前に、今日は2ページのところで会計方針の変更についてご説明を申し上げます。

重要な変更点が3点ございます。第1点は、代理人取引ということで、この変更におきましては、いわゆる商社取引に、利ざやのみ売上に計上するという方向に変更いたします。その結果、21年度につきましては、売上と原価がそれぞれ446億円減少するということとなります。

二つ目の変更は、ロイヤリティ収入の収益認識の変更でございます。特に動物薬のロイヤリティでございますけれども、従来は8月、2月の年2回に計上しておりましたが、21年度からはこれを四半期ごと、5月、8月、11月、2月と、このように分割して計上いたします。

最後に、売上の値引きについての変更でございます。これは農業化学品事業での変更となります。売上期間に従いまして、見積もりを計上するという考え方です。従来は金額確定の時点で計上しておりましたが、今年度から期間配分をいたします。

その結果、値引き額の計上については、1Q は増加、従って収益はマイナス。2Q は増加、収益はマイナス。上期は増加、収益はマイナス。下期につきましては、値引き額は減少、従って収益はプラス。年間はプラスマイナスゼロということとなります。

それから、21 年度のバランスシートへの影響ということで、期首利益剰余金の項目で、今の値引きにつきましてはの遡及の修正を 21 億円行います。

## 決算ハイライト

### 1. 2020年度下期 実績

#### (1) 前年同期比

- ◆営業利益は、前年同期206億円に対し、245億円と39億円の増益(前年同期比+19%)  
機能性材料・化学品・農業化学品が増益となった(医薬品は横ばい)
- ◆親会社株主に帰属する当期純利益(以下、純利益)は、前年同期163億円に対し、196億円と33億円の増益(前年同期比+20%)

#### (2) 業績予想(2020年11月発表)比

- ◆営業利益は、業績予想223億円に対し、245億円と22億円の増え  
化学品、機能性材料が大きく増え、農業化学品・医薬品の下ぶれをカバーした
- ◆純利益は、業績予想175億円に対し196億円と、21億円の増え

### 2. 2020年度 実績

#### (1) 前年比

- ◆営業利益は、前年386億円に対し、425億円と39億円の増益(前年同期比+10%)  
機能性材料・化学品の増益が、農業化学品・医薬品の減益を大きく上回った
- ◆純利益は、前年308億円に対し、335億円と27億円の増益(前年同期比+9%)
- ◆その結果、コロナ禍にかかわらず営業利益・経常利益は7年連続、純利益は8年連続で過去最高益を更新した
- ◆ROEは17.5%となり、前年実績16.9%、2020年11月発表予想値16.6%を上回った(中計目標値16%以上)

3

続いて、決算のハイライト。3 ページでご説明いたします。

まず、20 年度の下期の実績です。前年同期に比べまして営業利益は 39 億円の増益で 245 億円となりました。当期純利益につきましては、前年の 163 億円から 196 億円と、33 億円の増益となりました。

この業績予想比ですが、営業利益につきましては 22 億円の増え、純利益は 21 億円の増えとなりました。

続いて、20 年度年間の実績でございます。

最初に、前年比です。営業利益は前年の 386 億円に対して 425 億円と 39 億円、10%の増益を確保いたしました。

純利益です。前年の 308 億円に対しまして 335 億円で 27 億円の増益、9%の増益でございます。

その結果、コロナ禍ではございますが、営業利益・経常利益は 7 年連続、純利益は 8 年連続で過去の最高益を更新いたしました。

ROE につきましては 17.5%で、前年の 16.9%を上回り、11 月の予想値 16.6%も上回っております。

## 決算ハイライト

### 2. 2020年度 実績

#### (2) 株主還元

- ◆配当は、年間104円(中間46円、期末58円)とし、前年90円(中間42円、期末48円)に対し、14円増配、2020年11月発表予想の98円に対し、6円上ぶれとなった
- ◆その結果、配当は、9年連続増配を達成
- ◆配当性向は、前年実績42.8%に対し、44.9%となり、2020年度中計目標値45%を達成
- ◆自己株式取得は、前年実績100億円に対し、100億円と同額
- ◆配当と自己株式を合計した総還元性向は、前年実績75.1%に対し、74.6%となり、2020年度中計目標値75%を達成

### 3. 2021予想

#### (1) 前年比

- ◆営業利益は、前年425億円に対し、436億円と11億円の増益(前年比+3%)  
化学品・機能性材料の増益が、農業化学品・医薬品の減益を上回る
- ◆純利益は、前年335億円に対し、341億円と6億円の増益(前年比+2%)
- ◆ROE予想は17.0%で、前年実績17.5%を下回るが、中計目標値16%以上を上回る

#### (2) 株主還元

- ◆配当は、年間108円(中間48円、期末60円)とし、前年104円(中間46円、期末58円)に対し、4円増配
- ◆その結果、配当は、10年連続増配の見込み
- ◆配当性向は、前年実績44.9%に対し、45.2%となり、2021年度中計目標値45%を達成
- ◆自己株式取得は、2021年5月14日に上限70億円の取得開始を発表
- ◆配当108円と自己株式70億円を合計した総還元性向は、65.7%となる(2021年度中計目標値75%)

#### (3) 中計比

- ◆営業利益は、中計目標430億円に対し、436億円と6億円の増えで、コロナ禍にもかかわらず目標達成の予想  
機能性材料が上ぶれ、化学品・農業化学品・医薬品が下ぶれ
- ◆純利益は、中計目標330億円に対し、341億円と11億円上ぶれで、目標達成の予想

4

続いて、4 ページにまいります。株主還元でございます。

年間の配当につきましては 104 円で、前年の 90 円から 14 円の増配といたします。11 月の発表時点では、これは 98 円でしたので、6 円の上ぶれとなります。その結果、配当につきましては 9 年連続の増配を達成することとなります。

配当性向は 44.9%となりまして、中計の目標値 45%をクリアしております。

自己株式取得は 100 億円ございまして、これは前年と同額でございます。

総還元性向は前年 75.1%に対して 74.6%で、おおむね中計の目標値 75%の水準となりました。

続いて 3 番目、21 年度の予想のハイライトでございます。

まず前年比でいきますと。

営業利益は 425 億円に対しまして 436 億円で 11 億円の増益。純利益は 341 億円で 6 億円の増益となります。ROE は 17%で、20 年度よりも下回りますが、中計の目標値 16%をクリアしております。

続いて、21 年度の株主還元の見込みです。

配当につきましては 108 円と、前年よりも 4 円の増配を計画しております。その結果、配当は 10 年連続増配の見込みとなります。配当性向は前年 44.9%に対して 45.2%となり、やはり中計目標値の 45%をクリアしております。

自己株式の取得でございますが、本日発表させていただきましたが、上限 70 億円でまずスタートをしております。総還元性向は、この段階では 65.7%でございます。

続いて中計比であります。

営業利益につきましては 430 億円が中計目標ですので、これを 6 億円上回る水準ということで、コロナ禍にもかかわらず目標達成の予想でございます。

純利益につきましても 11 億円ほど中計目標を上回る計画となります。

## 2020実績

(億円)

	2019実績			2020実績			増減			増減率	2020予想 (2020/11発表)		
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	計	上実績	下	計
売上高	965	1,103	2,068	945	1,146	過去最高 2,091	-20	+43	+23	+1%	945	1,150	2,095
営業利益	180	206	386	180	245	過去最高 425	0	+39	+39	+10%	180	223	403
営業外損益	6	8	14	2	12	14	-4	+4	0	-	2	6	8
経常利益	186	214	400	182	257	過去最高 439	-4	+43	+39	+10%	182	229	411
特別損益	9	1	10	11	5	16	+2	+4	+6	-	11	5	16
純利益 (1)	145	163	308	139	196	過去最高 335	-6	+33	+27	+9%	139	175	314
EBITDA (2)	227	265	492	228	302	530	+1	+37	+38	+8%	228	279	507
EPS (円/株)	98.75	111.34	210.09	95.96	135.77	231.73	-2.79	+24.43	+21.64	+10%	95.96	121.60	217.56
配当 (円/株)	42	48	90	46	58	104	+4	+10	+14		46	52	98
配当総額	62	69	131	66	84	150	+4	+15	+19		66	75	141
売上高営業利益率	18.7%	18.7%	18.7%	19.0%	21.4%	20.3%	+0.3%	+2.7%	+1.6%		19.0%	19.4%	19.2%
ROE	-	-	16.9%	-	-	17.5%	-	-	+0.6%		-	-	16.6%
為替レート(円/ドル)	109	109	109	107	105	106					107	105	
原油(JCC)(ドル/bbl) (3)	69	67	68	36	50	43					36	44	

(1) 純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を指す

(2) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(3) 財務省貿易統計ベース

5

続いて5ページ。20年度の実績の表がございます。

概略を申し上げましたので、ここではEPSをご覧ください。19年度は210円、20年度は231.7円となりました。

それから、この表の一番下、原油でございますけども、19年度は68ドル、それから20年度は43ドルという原油安の状況でございました。

## 2020下実績

### <前年同期比>

(売上高) ◆増収	+43 億円	(+4%)	(増収) 機能性材料、農業化学品、医薬、卸売 (減収) 化学
(営業利益) ◆増益	+39 億円	(+19%)	(増益) 化学、機能性材料、農業化学品、卸売 (横ばい) 医薬
(経常利益) ◆増益	+43 億円	(+20%)	
(純利益) ◆増益	+33 億円	(+20%)	
(EPS) ◆増加	+24.43円	(+22%)	

### <2020/11業績予想比>

(売上高) ◆下ぶれ	-4 億円	(上ぶれ) 化学、機能性材料、卸売 (下ぶれ) 農業化学品、医薬
(営業利益) ◆上ぶれ	+22 億円	(上ぶれ) 化学、機能性材料、卸売 (下ぶれ) 農業化学品、医薬
(経常利益) ◆上ぶれ	+28 億円	
(純利益) ◆上ぶれ	+21 億円	
(EPS) ◆上ぶれ	+14.17円	

続いて、6 ページは下期の実績ですので後ほどご覧ください。

## 2020実績

### <前年比>

(売上高)	◆増収	+ 23 億円	(+1%)	(増収)	機能性材料、卸売
				(減収)	化学、農業化学品、医薬
(営業利益)	◆増益	+ 39 億円	(+10%)	(増益)	化学、機能性材料、卸売
				(減益)	農業化学品、医薬

◆売上高営業利益率 20.3%

2003年より18年連続10%以上維持

(経常利益)	◆増益	+ 39 億円	(+10%)		
(特別損益)	◆増益	+ 6 億円		2020年間(特別損益)	+16億円(有価証券売却益16億円・売却額31億円、15銘柄(うち11銘柄保有全株数売却))

2019年間(特別損益) +10億円

(純利益)	◆増益	+ 27 億円	(+9%)		
(EPS)	◆増加	+ 21.64 円	(+10%)		
(ROE)	◆	17.5%	(2019年16.9%)		

営業利益・経常利益は7年連続、純利益は8年連続 過去最高益を更新

### <株主還元>

(配当)	◆	中間46円、期末58円、計104円、配当性向44.9%	9年連続増配を達成
		前年比: 14円増配、配当性向+2.1%、2020/11業績予想比: 6円増額	
(自己株式取得)	◆	100億円、1.8百万株取得(2019年度100億円、2.1百万株)	
(自己株式消却)	◆	1百万株消却(2020年8月)	
(総還元性向)	◆	74.6%(中計目標 75%を達成)	

7

7 ページにまいります。20 年度の実績。

こちらでも概略を申し上げましたので、特別損益のところだけ申し上げます。

今期の 20 年度の特別損益は 6 億円の増益となりました。この中では有価証券の売却益で 16 億円ということですので、売却額は 31 億円。持っていました銘柄のうち 11 銘柄につきましては、全株の売却を行っております。

その結果、この下赤い字で囲んでおりますけれども、営業利益・経常利益は 7 年連続、純利益は 8 年連続で過去の最高益を更新いたしております。



## 2020下実績

(億円)

	2019実績			2020実績			増減			2020予想 (2020/11発表)		
	3Q	4Q	下	3Q	4Q	下	3Q	4Q	下	3Q	4Q	下
売上高	415	688	1,103	437	709	1,146	+22	+21	+43	447	703	1,150
営業利益(1)	35	171	206	56	189	245	+21	+18	+39	42	181	223
営業外損益	5	3	8	2	10	12	-3	+7	+4	5	1	6
経常利益(1)	40	174	214	58	199	257	+18	+25	+43	47	182	229
特別損益	0	1	1	0	5	5	0	+4	+4	0	5	5
純利益(1)(2)	31	132	163	45	151	196	+14	+19	+33	37	138	175
EBITDA(3)	63	202	265	83	219	302	+20	+17	+37	-	-	279
EPS(円/株)(1)	21.18	90.16	111.34	30.97	104.80	135.77	+9.79	+14.64	+24.43	-	-	121.60
配当(円/株)	-	-	48	-	-	58	-	-	+10	-	-	52
配当総額	-	-	69	-	-	84	-	-	+15	-	-	75
売上高営業利益率(1)	8.4%	24.9%	18.7%	12.8%	26.8%	21.4%	+4.4%	+1.9%	+2.7%	9.4%	25.7%	19.4%

- (1) 2019実績: 当時、償却期間5年で仮計算していた殺菌剤クインテック(キノキシフェン)事業の償却費を、会計監査後の確定値8.4年(加重平均)償却に修正。これにより2019年3Q実績を、当時の公表値から営業利益、経常利益を+0.8億円、純利益を+0.6億円修正。  
セグメント別営業利益では調整額に反映。2019年3Qと4Qの内訳のみ修正、2019年下期および通期の値には影響なし。
- (2) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す
- (3) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

8

続いて、8ページは、20年度の下期の実績として、これも後ほどご覧ください。

## 2020 3Q実績

### <前年同期比>

(売上高) ◆増収	+22 億円	(+5%)	(増収) 機能性材料、農業化学品、卸売 (減収) 化学、医薬
(営業利益) ◆増益	+21 億円	(+60%)	(増益) 化学、機能性材料、農業化学品、卸売 (減益) 医薬
(経常利益) ◆増益	+18 億円	(+48%)	
(純利益) ◆増益	+14 億円	(+45%)	
(EPS) ◆増加	+9.79円	(+46%)	

### <2020/11業績予想比>

(売上高) ◆下ぶれ	-10 億円	(上ぶれ) 化学、機能性材料 (下ぶれ) 農業化学品、医薬、卸売
(営業利益) ◆上ぶれ	+14 億円	(上ぶれ) 機能性材料、卸売 (予想通り) 化学 (下ぶれ) 農業化学品、医薬
(経常利益) ◆上ぶれ	+11 億円	
(純利益) ◆上ぶれ	+8 億円	

9 ページは、復習の意味で 3Q の実績です。

## 2020 4Q実績

### <前年同期比>

(売上高) ◆増収	+21 億円	(+3%)	(増収) 化学、機能性材料、農業化学品、医薬、卸売
(営業利益) ◆増益	+18 億円	(+11%)	(増益) 化学、機能性材料、医薬、卸売 (横ばい) 農業化学品
(経常利益) ◆増益	+25 億円	(+14%)	
(純利益) ◆増益	+19 億円	(+15%)	
(EPS) ◆増加	+14.64円	(+16%)	

### <2020/11業績予想比>

(売上高) ◆上ぶれ	+6 億円	(上ぶれ) 機能性材料、農業化学品、医薬、卸売 (予想通り) 化学
(営業利益) ◆上ぶれ	+8 億円	(上ぶれ) 化学、機能性材料、農業化学品、卸売 (下ぶれ) 医薬
(経常利益) ◆上ぶれ	+17 億円	
(純利益) ◆上ぶれ	+13 億円	

10

続いて、10 ページ。4Q の実績です。

こちらでは業績予想比較のところだけ触れます。

ご覧のとおり、業績予想に対しまして全体で、売上で 6 億円、営業利益で 8 億円の**上ぶれ**ということとなりました。

## 2020実績、2021予想 営業外損益・特別損益

(億円)

	2019実績	2020予想 (2020/11発表)	2020実績	2021予想
営業外収益	26.1	24.2	27.9	26.7
受取利息・配当金	8.2	7.7	10.0	6.5
持分法投資損益 他	17.9	16.5	17.9	20.2
営業外費用	12.6	16.1	14.3	13.3
支払利息	1.2	0.9	0.7	0.8
固定資産処分損 他	11.4	15.2	13.6	12.5
営業外損益	13.5	8.1	13.6	13.4
特別利益(投資有価証券売却益)	18.3	16.0	15.9	16.0
特別損失	8.3	0.0	0.0	0.0
特別損益	10.0	16.0	15.9	16.0

11

続いて、11 ページにまいります。

営業外損益・特損のところではありますが、ご覧のとおり 19 年度と 20 年度はあまり変わらない数字となっております。

## 2020実績、2021予想 キャッシュフロー

(億円)

	2019実績	2020予想 (2020/11発表)	2020実績	2021予想
営業キャッシュ・フロー	355	350	399	407
税金等調整前純利益	410	427	455	458
投資有価証券売却損益(－は益)	-18	-16	-16	-16
減価償却費(1)	105	104	104	111
法人税等の支払	-84	-114	-111	-123
運転資金増減他	-58	-51	-33	-23
投資キャッシュ・フロー	-156	-94	-128	-181
設備投資	-89	-99	-82	-161
投資有価証券購入・売却	25	21	29	19
その他(2)	-92	-16	-75	-39
財務キャッシュ・フロー	-252	-251	-256	-274
株主還元(配当)	-124	-231	-136	-257
株主還元(自己株取得)	-100		-100	
借入金増減額	-19	-20	-20	-17
その他(3)	-9	0	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	-3	0	3	0
現金及び現金同等物の増減額	-56	5	18	-48
現金及び現金同等物の残高	306	311	324	276

(1) のれん償却費を含む

(2) 2019実績: 殺菌剤クインテック事業買収-63、他-29, 2020実績: 殺菌剤ダイセン事業買収-54、他-21

(3) 2019実績: 業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得-8、他-1

12

続いて、12 ページがキャッシュフローであります。

20 年度のところで、投資キャッシュフローのその他、マイナス 75 億円となっておりますが、この中にはダイセンの買収で 54 億円が含まれております。

そういった大きな買収がございましたが、引き続き潤沢なキャッシュフローということで、最終現預金も 324 億円で、昨年度より 18 億円増えてございます。

21 年度につきましては、投資のキャッシュ上のタイミングで支出が増えるということとなりますので、現預金は若干減りまして 276 億円の期末残を見込んでおります。

## 2020 貸借対照表

(億円)

	2020/3	2021/3	増減
流動資産	1,542	1,596	+54
現金預金	306	324	+18
売上債権	725	739	+14
たな卸資産	439	467	+28
その他	72	66	-6
固定資産	953	1,059	+106
有形固定資産	516	518	+2
無形固定資産	74	121	+47
投資有価証券*	309	359	+50
その他	54	61	+7
資産合計	2,495	2,655	+160

\*投資有価証券内訳

	2020/3	2021/3	増減
上場株式 (1)	207	244	+37
非上場株式	26	27	+1
関係会社株式	76	88	+12
合計	309	359	+50

	2020/3	2021/3	増減
負債	640	649	+9
買入債務	169	163	-6
借入金	246	227	-19
その他	225	259	+34
純資産	1,855	2,006	+151
株主資本	1,771	1,869	+98
その他有価証券 評価差額金	78	114	+36
為替換算 調整累計額	-9	1	+10
非支配株主持分	16	17	+1
退職給付に係る 調整累計額	-1	5	+6
負債・純資産合計	2,495	2,655	+160

自己資本比率 73.7% 74.9%

D/Eレシオ (2) -3.4% -5.2%

株主資本等増減 +98 = 純利益335 - 配当その他237

(1) 20/3末 207 +取得0 -売却15 +評価差額52 =21/3末 244

(2) D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

13

続いて、13 ページにまいります。

13 ページはバランスシートですが、現預金、21 年 3 月末は 324 億円にして、借入金が 227 億円で、ネットキャッシュの状態が続いております。

自己資本比率は 74.9%です。

もう 1 点、左下の上場株式のところをご覧ください。

207 億円から 244 億円に 37 億円増えましたが、その内訳が、右側の両括弧 1 番の注にあります。取得はゼロですが、売却が 15 億円、それに対して評価差額で 52 億円増えております。

# 2021予想<sup>(1)</sup>

(億円)

	2020実績					2021予想					増減					増減率
	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計	計
売上高	493	452	945	1,146	2,091	400	365	765	960	1,725	-93	-87	-180	-186	-366	-18%
営業利益	98	82	180	245	425	98	79	177	259	過去最高 436	0	-3	-3	+14	+11	+3%
営業外損益	6	-4	2	12	14	4	-1	3	10	13	-2	+3	+1	-2	-1	-
経常利益	104	78	182	257	439	102	78	180	269	過去最高 449	-2	0	-2	+12	+10	+2%
特別損益(2)	0	11	11	5	16	0	10	10	6	16	0	-1	-1	+1	0	-
純利益(3)	76	63	139	196	335	75	65	140	201	過去最高 341	-1	+2	+1	+5	+6	+2%
EBITDA(4)	121	107	228	302	530	-	-	227	320	547	-	-	-1	+18	+17	+3%
EPS(円/株)	52.38	43.58	95.96	135.77	231.73	-	-	98.03	141.15	239.18	-	-	+2.07	+5.38	+7.45	+3%
配当(円/株)	-	-	46	58	104	-	-	48	60	108	-	-	+2	+2	+4	
配当総額	-	-	66	84	150	-	-	68	86	154	-	-	+2	+2	+4	
売上高営業利益率	19.9%	18.1%	19.0%	21.4%	20.3%	24.5%	21.6%	23.1%	27.0%	25.3%	+4.6%	+3.5%	+4.1%	+5.6%	+5.0%	
ROE	-	-	-	-	17.5%	-	-	-	-	17.0%						-0.5%
為替レート(円/ドル)	108	106	107	105	106	107	107	107	107	107						
原油(JCC)(ドル/bbl)(5)	31	41	36	50	43	55	55	55	55	55						

(1) 2021予想: 会計方針の変更による主たる影響(p2参照):

①代理人取引影響 上期-206億円、下期-240億円、計-446億円(上記売上高に反映済、セグメント情報では調整額に反映)

売上値引影響 上期-10億円、下期+10億円、計0億円(上記売上高に反映済、セグメント情報では農業売上高に反映)

合計 上期-216億円、下期-230億円、計-446億円

②営業利益・経常利益 上期-10億円、下期+10億円、計0億円(農業)

③当期純利益 上期-7億円、下期+7億円、計0億円

(2) 2021予想: 投資有価証券売却益16億円

(3) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(4) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(5) 実績は財務省貿易統計ベース

14

続いて、14 ページ、21 年度予想の表であります。

真ん中のところにございますとおり、営業利益は 436 億円。それから売上高 1,725 億円で、昨年に比べて 366 億円減りますが、これは先ほどの会計基準の変更によるものです。

この表の欄外、両括弧 1 番に会計方針の変更による影響をまとめてございます。

上期・下期でそれぞれ代理人取引影響がございますとともに、売上値引で上期では変更前に比べて値引きが 10 億円増え、下期では 10 億円減るということになります。従って、それが上期・下期では収益上のインパクトとして出てまいります。年間では変わりません。

それから表の中でいきますと、EPS ですが、239.18 円で 7 円強の上昇となります。

それから前提の為替レートですが、一番下のほう、1 ドル 107 円と置いております。

原油につきましては 55 ドルで、前年実績の 43 ドルから上がる前提でございます。

## 2021予想

### <前年比>

(売上高) ◆減収 - 366 億円 (-18%) (会計方針の変更による売上高減少 p2参照)	(増収) 化学、機能性材料、農業化学品、卸売 (減収) 医薬
(営業利益) ◆増益 + 11 億円 (+3%)	(増益) 化学、機能性材料 (減益) 農業化学品、医薬、卸売
(経常利益) ◆増益 + 10 億円 (+2%)	
(純利益) ◆増益 + 6 億円 (+2%)	
(EPS) ◆増加 + 7.45円 (+3%)	
(ROE) ◆17.0% (2020年17.5%)	

営業利益・経常利益は8年連続、純利益は9年連続で過去最高益を更新

### <株主還元>

- (配当) ◆中間48円、期末60円、計108円、配当性向45.2% 10年連続増配の見込み  
前年比: 4円増配、配当性向+0.3%(中計目標45%)
- (自己株式取得) ◆2021年5月14日発表分 70億円(2020年度100億円、1.8百万株)
- (自己株式消却) ◆1百万株(2021年5月)
- (総還元性向目標) ◆75%(配当108円、自己株式取得70億円に基づけば65.7%)

15

15 ページが 21 年度の予想であります。

こちらも概略を申し上げましたが、赤く囲っておりますとおり、営業利益・経常利益は 8 年連続、純利益は 9 年連続で最高益を更新の見込みであります。



## 2021 1Q予想・2021上予想

### <1Q前年比>

(売上高) ◆減収 (p2参照)	-93 億円	(-19%)	(増収) 化学、機能性材料 (減収) 農業化学、医薬、卸売
(営業利益) ◆横ばい	0 億円	(0%)	(増益) 化学、機能性材料 (減益) 農業化学、医薬、卸売
(経常利益) ◆減益	-2 億円	(-2%)	
(純利益) ◆減益	-1 億円	(-1%)	

### <上期前年比>

(売上高) ◆減収 (p2参照)	-180 億円	(-19%)	(増収) 化学、機能性材料 (減収) 農業化学、医薬、卸売
(営業利益) ◆減益	-3 億円	(-2%)	(増益) 化学、機能性材料、医薬 (減益) 農業化学品、卸売
(経常利益) ◆減益	-2 億円	(-1%)	
(純利益) ◆増益	+1 億円	(+1%)	

16

16 ページは、1Q と上期の予想です。後ほどご覧ください。

## 2020実績 セグメント別売上高(1)(2)(3)

(億円)

	2019実績					2020実績					増減					2020予想 (2020/11発表)				
	上	3Q	4Q	下	計	上	3Q	4Q	下	計	上	3Q	4Q	下	計	上実	3Q	4Q	下	計
化学	168	87	88	175	343	147	83	89	172	319	-21	-4	+1	-3	-24	147	81	89	170	317
ファイン	52	26	27	53	105	54	28	32	60	114	+2	+2	+5	+7	+9	54	29	35	64	118
基礎	116	61	61	122	238	93	55	57	112	205	-23	-6	-4	-10	-33	93	52	54	106	199
機能性	314	170	171	341	655	346	192	178	370	716	+32	+22	+7	+29	+61	346	175	177	352	698
農化	279	55	306	361	640	257	63	318	381	638	-22	+8	+12	+20	-2	257	82	307	389	646
医薬	34	16	20	36	70	30	14	23	37	67	-4	-2	+3	+1	-3	30	16	22	38	68
創薬	21	9	10	19	41	15	6	8	14	29	-6	-3	-2	-6	-12	15	6	9	15	30
FT	13	6	10	16	29	15	8	15	23	38	+2	+2	+5	+7	+9	15	10	13	23	38
卸売	333	175	171	346	679	337	178	183	361	698	+4	+3	+12	+15	+19	337	179	175	354	691
その他	98	51	75	126	224	94	68	76	144	238	-4	+17	+1	+18	+14	94	64	76	140	234
調整額	-261	-139	-143	-282	-543	-266	-161	-158	-319	-585	-5	-22	-15	-37	-42	-266	-150	-143	-293	-559
合計	965	415	688	1,103	2,068	945	437	709	1,146	2,091	-20	+22	+21	+43	+23	945	447	703	1,150	2,095

(1) 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

(3) 2020年度より、ファインオキシコール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

17

続きまして、17 ページは 20 年度のセグメント別の売上状況。

## 2020実績 セグメント別営業利益(1)(2)(3)(4)

(億円)

	2019実績					2020実績					増減					2020予想 (2020/11発表)				
	上	3Q	4Q	下	計	上	3Q	4Q	下	計	上	3Q	4Q	下	計	上実	3Q	4Q	下	計
化学	3	5	5	10	13	-1	7	9	16	15	-4	+2	+4	+6	+2	-1	7	6	13	12
機能性	84	47	39	86	170	107	63	54	117	224	+23	+16	+15	+31	+54	107	49	50	99	206
農化	94	-18	117	99	193	78	-13	117	104	182	-16	+5	0	+5	-11	78	-7	116	109	187
医薬	5	1	3	4	9	0	0	4	4	4	-5	-1	+1	0	-5	0	1	5	6	6
創薬	0	-2	0	-2	-1	-4	-4	-2	-6	-9	-4	-2	-2	-4	-8	-4	-4	-1	-5	-9
FT	5	2	4	6	11	4	3	6	9	13	-1	+1	+2	+3	+2	4	4	6	10	14
卸売	10	6	5	11	21	12	7	6	13	25	+2	+1	+1	+2	+4	12	5	4	9	21
その他	1	1	5	6	7	0	4	4	8	8	-1	+3	-1	+2	+1	0	1	5	6	6
調整額	-17	-7	-3	-10	-27	-16	-12	-5	-17	-33	+1	-5	-2	-7	-6	-16	-14	-5	-19	-35
合計	180	35	171	206	386	180	56	189	245	425	0	+21	+18	+39	+39	180	42	181	223	403

(1) 2019-20年度：新方式セグメント別営業利益

1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)

2. 2019年度は遡及して再計算

3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

(3) 2020年度より、ファインオキソコール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

(4) 2019年3Q、4Q調整額:クインテック償却費修正(p8参照)

18

それから、18 ページがセグメント別の営業利益です。

こちらで増減のところをご覧ください。年間合計で 39 億円の増益となりました。

セグメント別に見ますと、化学品でプラス 2 億円、機能性でプラス 54 億円、農業化学品でマイナス 11 億円、医薬品でマイナス 5 億円となりました。

これと一番右側の予想値がございます。これとの比較となりますと、化学品は上ぶれ、それから機能性材料も上ぶれ、農業化学品と医薬品は下ぶれと。こういった結果となりました。

## 2021予想 セグメント別売上高(1)(2)(3)

(億円)

	2020実績					2021予想					増減				
	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計
化学	74	73	147	172	319	84	83	167	179	346	+10	+10	+20	+7	+27
ファイン	27	27	54	60	114	32	31	63	66	129	+5	+4	+9	+6	+15
基礎	47	46	93	112	205	52	52	104	113	217	+5	+6	+11	+1	+12
機能性	171	175	346	370	716	186	186	372	386	758	+15	+11	+26	+16	+42
農業化学	146	111	257	381	638	145	103	248	414	662	-1	-8	-9	+33	+24
医薬	15	15	30	37	67	9	20	29	32	61	-6	+5	-1	-5	-6
創薬	7	8	15	14	29	5	5	10	11	21	-3	-3	-5	-2	-7
FT	8	7	15	23	38	4	15	19	20	39	-4	+8	+4	-3	+2
卸売	182	155	337	361	698	165	170	335	366	701	-17	+15	-2	+5	+3
その他	48	46	94	144	238	49	54	103	131	234	+1	+8	+9	-13	-4
調整額	-143	-123	-266	-319	-585	-240	-249	-489	-548	-1,037	-97	-126	-223	-229	-452
合計	493	452	945	1,146	2,091	398	367	765	960	1,725	-95	-85	-180	-186	-366

(1) 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

(2) 2021予想:会計方針の変更による売上高減少を含む(p2, 14参照)

(3) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

19

続いて、19 ページが 21 年度のセグメント別の売上高です。

従来どおり 1Q、2Q の区分けも示してございます。

## 2021予想 セグメント別営業利益<sup>(1)(2)</sup>

(億円)

	2020実績					2021予想					増減				
	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計
化学	7	-8	-1	16	15	13	-3	10	14	24	+6	+5	+11	-2	+9
機能性	53	54	107	117	224	55	61	116	122	238	+2	+7	+9	+5	+14
農業化学	40	38	78	104	182	38	20	58	118	176	-2	-18	-20	+14	-6
医薬	-1	1	0	4	4	-3	5	2	1	3	-2	+4	+2	-3	-1
創薬	-2	-1	-4	-6	-9	-4	-3	-7	-8	-15	-2	-2	-4	-2	-6
FT	2	2	4	9	13	1	8	9	9	18	-1	+6	+5	0	+5
卸売	7	5	12	13	25	5	6	11	11	22	-2	+1	-1	-2	-3
その他	0	0	0	8	8	0	0	0	7	7	0	0	0	-1	-1
調整額	-8	-8	-16	-17	-33	-10	-10	-20	-14	-34	-2	-2	-4	+3	-1
<b>合計</b>	<b>98</b>	<b>82</b>	<b>180</b>	<b>245</b>	<b>425</b>	<b>98</b>	<b>79</b>	<b>177</b>	<b>259</b>	<b>436</b>	<b>0</b>	<b>-3</b>	<b>-3</b>	<b>+14</b>	<b>+11</b>

(1) 2021予想:会計方針の変更影響を含む(p2, 14参照)

(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

20

20 ページが年間の営業利益の予想値でございます。

一番右側にセグメントごとの増減値がございます。

化学品はプラス 9 億円。機能性材料はプラス 14 億円。農業化学品はマイナス 6 億円。医薬品がマイナス 1 億円。合計でプラス 11 億円という予想となっております。

## 将来の成長エンジン – 2020年度売上高予想(2020/5発表)

2020年度予想  
売上高規模(1)

(1)サンプル出荷に伴う試験費控除も含む

	3億円未満	3億円以上6億円未満	6億円以上	合計	
<b>化学品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デピック新製品(液状) (ファインケミカル)</li> <li>ピーナス®オイルクリーン (ファインケミカル)</li> </ul>			<b>0億円</b>	
<b>機能性材料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フレキシブルHC材料 (ディスプレイ)</li> <li>ホール注入材 (ディスプレイ)</li> <li>位相差フィルム用配向材 (ディスプレイ)</li> <li>三次元実装材料 (半導体)</li> <li>新規高屈(IM用フィルム) (無機)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調光フィルム材料 (ディスプレイ)</li> <li>撥液バンク材料 (ディスプレイ)</li> <li>TV向け配向材 (ディスプレイ)</li> <li>オルガノゾル(絶縁CTE) (無機)</li> <li>モノマーゾル (3Dプリンティング) (無機)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CMOSイメージセンサー材料 (半導体)</li> <li>オイル&amp;ガス材料 (無機)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EUV材料 (半導体)</li> </ul>	<b>31億円</b>
<b>農業化学品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネクスター (導入剤)</li> <li>クラール (自社開発)</li> <li>アレイル (自社開発)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランスフォーム™/エクシード™ /ピレスコ™ (導入剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グレーシア (自社開発)</li> <li>ラウンドアップAL II/III (自社開発)</li> <li>クインテック (買収剤)</li> </ul>	<b>91億円</b>	
<b>医薬品 -その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規ジェネリック (ファインテック)</li> <li>細胞培養材料</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>エルデカルシトール (ファインテック)</li> </ul>	<b>12億円</b>	
<b>合計 134億円</b>					

21

続いて、21 ページから 30 ページまでは成長エンジンの状況でございますが。

21 ページ。年初では合計で 134 億円と見ておりましたが。

# 将来の成長エンジン – 2020年度売上高実績

2020年度実績  
売上高規模(1)

(1)サンプル出荷に伴う試験費控除も含む

	3億円未満	3億円以上6億円未満	6億円以上	合計
<b>化学品</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">デピック新製品(液状) (ファインケミカル)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ピーナス®オイルクリーン (ファインケミカル)</div>			<b>0億円</b>
<b>機能性材料</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">フレキシブルHC材料 (ディスプレイ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">調光フィルム材料 (ディスプレイ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ホール注入材 (ディスプレイ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">撥液バンク材料 (ディスプレイ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">位相差フィルム用配向材 (ディスプレイ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">TV向け配向材 (ディスプレイ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">三次元実装材料 (半導体)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">オルガノゾル(絶縁CTE) (無機)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">新規高屈(IM用フィルム) (無機)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">モノマーゾル (3Dプリンティング) (無機)</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">CMOSイメージセンサー材料 (半導体)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">オイル&amp;ガス材料 (無機)</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">EUV材料 (半導体)</div>	<b>25億円</b>
<b>農業化学品</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ネクスター (導入剤)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">クラー (自社開発)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">アレイル (自社開発)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">トランスフォーム™/エクシード™ /ピレスコ™ (導入剤)</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">グレーシア (自社開発)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ラウンドアップAL II/III (自社開発)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">キンテック (買収剤)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ダイセン (買収剤)</div>	<b>78億円</b>
<b>医薬品 -その他</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">新規ジェネリック (ファインテック)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">新規ジェネリック (ファインテック)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">細胞培養材料</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">エルデカルシトール (ファインテック)</div>	<b>13億円</b>
<b>合計 116億円</b>				

22

22 ページ。着地では合計で 116 億円となりました。ここにはダイセンも入っております。

## 将来の成長エンジン – 2021年度売上高予想

2021年度予想  
売上高規模(1)

(1)サンプル出荷に伴う試験費控除も含む

	3億円未満	3億円以上6億円未満	6億円以上	合計
<b>化学品</b>	テビック新製品(液状) (ファインケミカル) ピーナス®オイルクリーン (ファインケミカル)			<b>0億円</b>
<b>機能性材料</b>	フレキシブルHC材料 (ディスプレイ) ホール注入材 (ディスプレイ) 位相差フィルム用配向材 (ディスプレイ) 三次元実装材料 (半導体) 新規高屈(IM用フィルム) (無機)	調光フィルム材料 (ディスプレイ) 撥液バンク材料 (ディスプレイ) TV向け配向材 (ディスプレイ) オルガノソル(絶縁CTE) (無機) モノマーソル (3Dプリンティング) (無機)	CMOSイメージセンサー材料 (半導体) オイル&ガス材料 (無機) EUV材料 (半導体)	<b>33億円</b>
<b>農業化学品</b>	ネクスター (導入剤) クラール (自社開発) アレイル (自社開発) トランスフォーム™/ エクシード™ / ビレスコ™ (導入剤)		グレーシア (自社開発) ラウンドアップAL II/III (自社開発) クインテック (買収剤) ダイセン (買収剤)	<b>113億円</b>
<b>医薬品 -その他</b>	新規ジェネリック (ファインテック) 細胞培養材料	新規ジェネリック (ファインテック)	エルデカルシトール (ファインテック)	<b>12億円</b>
<b>合計 158億円</b>				

23

続いて、23 ページ。

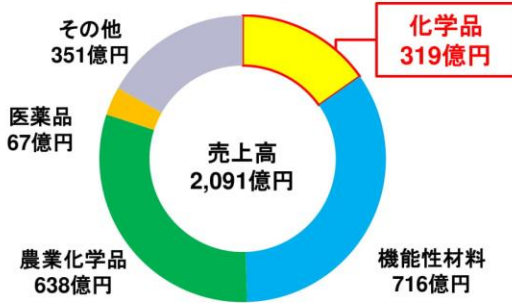
21年度の予想でして、158億円に増えるということになりますが、こちらにもダイセンが入ってございます。

その後は、各成長エンジンの製品説明でございますが、後ほどご覧ください。

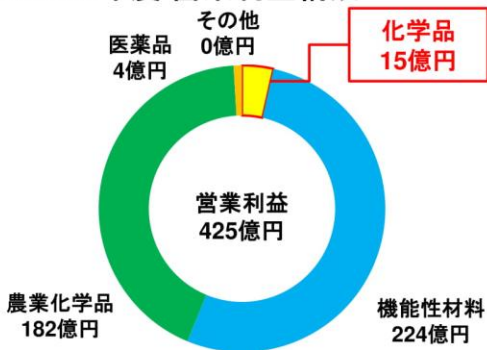


# 化学品セグメント概況- (A) 業績

## 1. 2020年度 売上高構成



## 2. 2020年度 営業利益構成



## 3. 化学品業績推移



31

続いて、31 ページまで飛ばさせていただきます。

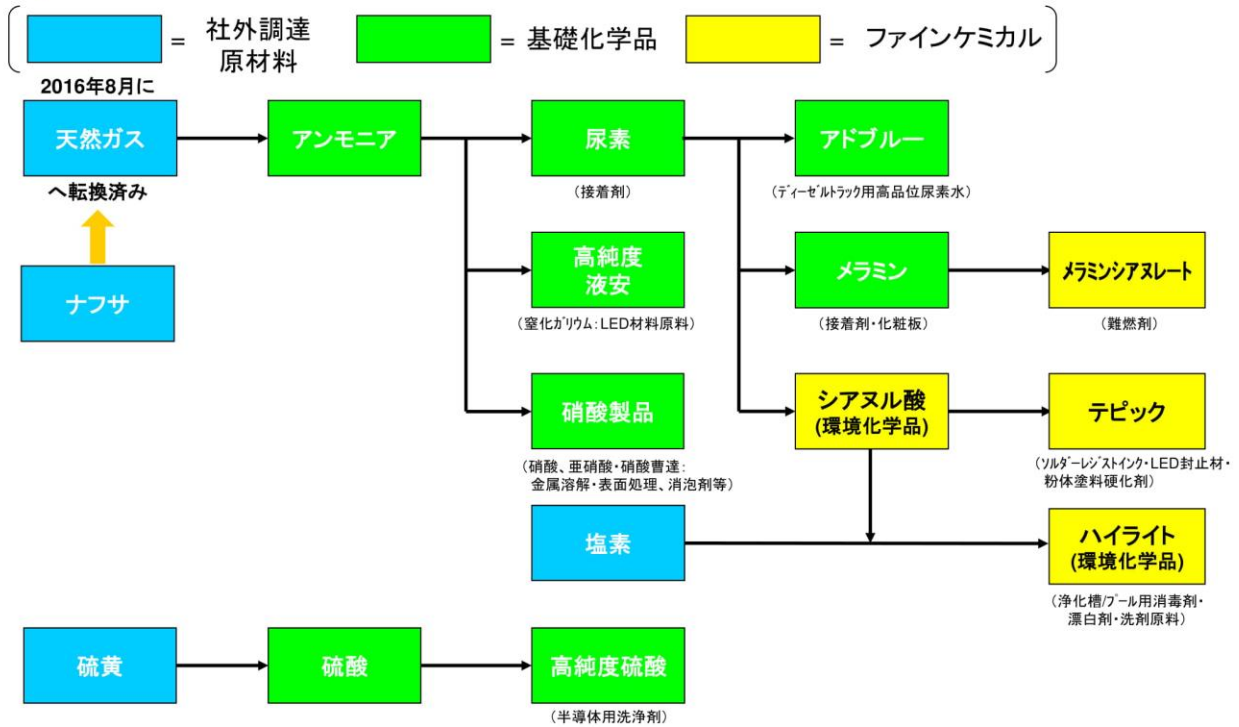
化学品セグメントです。

31 ページは従来の総括のページでございます。

# 化学品セグメント概況－(B) 主要製品製造フロー

◆基礎化学品主要製品 :アンモニア系製品と硫酸系製品

◆2020年度アンモニア国内生産能力シェア11%、高い自消率による付加価値向上



32 ページはマテリアルフロー。

## 化学品セグメント概況－(C) 主要製品売上高成長率

主要製品		前年同期比 連結売上高成長率(1)										
		2020予想 (2020/11 発表)			2020実績					2021予想		
		上実績	下	計	上	3Q	4Q	下	計	上	下	計
テピック	◆(用途)電材向け(ルタレージストインキ、LED封止材) 一般向け(粉体塗料硬化剤) ◆世界最大メーカー	-10%	+1%	-4%	-10%	+10%	+6%	+7%	-1%	+21%	-6%	+6%
環境 化学品	◆(ハイライト用途)塩素化イソシアヌル酸を主原料とし、 プール、浄化槽等の殺菌、消毒に使用	-9%	+22%	+4%	-9%	+2%	+3%	+3%	-4%	+19%	+29%	+24%
ファインケミカル合計 上記2製品の2020年度実績ファインケミカル売上高に占める割合: 74%		+3%	+21%	+12%	+3%	+14%	+16%	+15%	+9%	+17%	+9%	+13%
メラミン	◆(用途)接着剤、化粧板	-55%	-49%	-52%	-55%	-37%	-30%	-33%	-44%	+13%	-2%	+4%
尿素・ アドブルー	◆(用途)接着剤、 ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水	-5%	-1%	-3%	-5%	+3%	+9%	+6%	0%	+15%	+3%	+8%
高純度 硫酸	◆(用途)半導体用洗浄剤 ◆国内最大メーカー	+14%	+19%	+17%	+14%	+8%	+11%	+10%	+12%	+9%	+4%	+6%
硝酸製品	◆硝酸、亜硝酸・硝酸曹達 (用途)金属溶解・表面処理、消泡剤等	-2%	+7%	+3%	-2%	+11%	+15%	+13%	+5%	+16%	0%	+7%
基礎化学品合計 上記4製品の2020年度実績基礎化学品売上高に占める割合: 53%		-20%	-13%	-16%	-20%	-11%	-7%	-9%	-14%	+12%	+1%	+6%

(1) 2020年度よりファインオキシコール(化粧品原料等)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

33

続いて、33 ページが売上の状況でございます。

中ほどの 20 年度の下期の実績をご覧ください。

まずファインケミカル合計で 15%の増収となりましたが、左側の予想ではプラス 21%と見ておりました。テピックは上ぶれましたが、環境化学品が下ぶれた結果、増収率は下ぶれております。

一方、基礎化学品ですが、下期はマイナス 9%の減収ですが、従来予想はマイナス 13%でしたので、これに比べれば上ぶれています。

21 年度の予想ですが、ファインケミカルは年間でプラス 13%、基礎化学品はプラス 6%で、全体として改善を見込んでおります。

# 化学品セグメント概況- (D-1) セグメント収益動向

(億円)

	2019実績					2020下予想 (20/11発表)			2020実績(A)					2021予想(B)					増減 (B) - (A)						
	上	3Q	4Q	下	計	3Q	4Q	下	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計
売上高	168	87	88	175	343	81	89	170	74	73	147	83	89	172	319	84	83	167	179	346	+10	+10	+20	+7	+27
<sub>ファイン</sub>	52	26	27	53	105	29	35	64	27	27	54	28	32	60	114	32	31	63	66	129	+5	+4	+9	+6	+15
<sub>基礎</sub>	116	61	61	122	238	52	54	106	47	46	93	55	57	112	205	52	52	104	113	217	+5	+6	+11	+1	+12
営業利益	3	5	5	10	13	7	6	13	7	-8	-1	7	9	16	15	13	-3	10	14	24	+6	+5	+11	-2	+9
FO*売上高	7	-	-	8	15	-	-	8	-	-	6	-	-	6	12	-	-	7	8	15					

\*2020年度よりファインオキシソール(FO、化粧品原料等)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

## 2020 4Q実績 <前年同期比>

- (ファイン) ◆ 増収: テピック一般(輸出回復)、テピック電材(車載向け回復)、環境(輸出好調)  
◆ 原燃料安  
◆ 売上高増加(FO\*移管プラス影響含む)、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: 硝酸製品、高純度硫酸(半導体向け好調)、尿素・アドブルー  
◆ 減収: メラミン輸出(スプレッド重視で数量減の方針)、メラミン国内  
◆ 原燃料安  
◆ 在庫変動影響(プラス要因)  
◆ 売上高減少(FO\*移管マイナス影響含む)、営業利益増加
- (合計) ◆ 売上高+1億円、営業利益+4億円

## 2020 4Q実績 <2020/11業績予想比>

- (ファイン) ◆ 売上高予想通り: テピック電材  
◆ 売上高下ぶれ: 環境、テピック一般、FO\*  
◆ 在庫変動影響(プラス要因)  
◆ 売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ
- (基礎) ◆ 売上高上ぶれ: メラミン輸出(需要回復)、硝酸製品、尿素・アドブルー  
◆ 売上高下ぶれ: 高純度硫酸、メラミン国内  
◆ 原燃料高、運送費高  
◆ 在庫変動影響(プラス要因)  
◆ 売上高上ぶれ、営業利益予想通り
- (合計) ◆ 売上高予想通り、営業利益+3億円

35

続いて、35 ページ。

セグメント収益動向ですが、以下、時間の制約もございますので、それぞれのセグメントでは20年度下期実績の予想比、20年度年間実績のYoY、21年度年間予想のYoYに絞ってご説明申し上げます。

# 化学品セグメント概況- (D-2) セグメント収益動向

\*FO: ファインオキシコール (p33参照)

2020下実績 <前年同期比>		2020下実績 <2020/11業績予想比>	
(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: テピック一般(輸出回復)、テピック電材(車載向け回復)、環境(輸出好調)</li> <li>◆ 原燃料安</li> <li>◆ 在庫変動影響(マイナス要因)</li> <li>◆ 売上高増加(FO*移管プラス影響含む)、営業利益増加</li> </ul>	(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 売上高上ぶれ: テピック一般(輸出回復)、テピック電材(車載向け回復)</li> <li>◆ 売上高下ぶれ: 環境、FO*(化粧品向け低調)</li> <li>◆ 固定費下ぶれ(プラス要因)</li> <li>◆ 原燃料高</li> <li>◆ 売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ</li> </ul>
(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: 高純度硫酸(半導体向け好調)、硝酸製品、尿素・アドブルー</li> <li>◆ 減収: メラミン輸出(スプレッド重視で数量減の方針)、メラミン国内</li> <li>◆ 原燃料安</li> <li>◆ 在庫変動影響(プラス要因)</li> <li>◆ 売上高減少(FO*移管マイナス影響含む)、営業利益増加</li> </ul>	(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 売上高上ぶれ: メラミン輸出(需要回復)、硝酸製品、尿素・アドブルー</li> <li>◆ 売上高下ぶれ: 高純度硫酸、メラミン国内</li> <li>◆ 原燃料安</li> <li>◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ</li> </ul>
(合計)	◆ 売上高-3億円、営業利益+6億円	(合計)	◆ 売上高+2億円、営業利益+3億円
2020実績 <前年同期比>		2021予想 <前年同期比>	
(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: テピック一般</li> <li>◆ 減収: 環境(輸出増収、国内プール、SPA向け減収)、テピック電材(車載向け上期まで低調)</li> <li>◆ 原燃料安</li> <li>◆ 売上高増加(FO*移管プラス影響含む)、営業利益増加</li> </ul>	(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: 環境(CA能力増強、輸出好調)、FO*(化粧品向け回復)、テピック電材(車載向け回復)、テピック一般(輸出価格上昇)</li> <li>◆ 固定費増加(CA能力増強)</li> <li>◆ 在庫変動影響(プラス要因)</li> <li>◆ 売上高増加、営業利益増加</li> </ul>
(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: 高純度硫酸(半導体向け好調)、硝酸製品</li> <li>◆ 横ばい: 尿素・アドブルー</li> <li>◆ 減収: メラミン輸出(スプレッド重視で数量減の方針)、メラミン国内</li> <li>◆ 原燃料安</li> <li>◆ 売上高減少(FO*移管マイナス影響含む)、営業利益減少</li> </ul>	(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: メラミン国内(需要回復)、硝酸製品、尿素・アドブルー、高純度硫酸(半導体向け好調)</li> <li>◆ 減収: メラミン輸出(スプレッド重視で数量減の方針)</li> <li>◆ 固定費増加(タンク更新等)、原燃料高</li> <li>◆ 在庫変動影響(マイナス要因)</li> <li>◆ 売上高増加、営業利益横ばい</li> </ul>
(合計)	◆ 売上高-24億円、営業利益+2億円	(合計)	◆ 売上高+27億円、営業利益+9億円

36

まず 36 ページでございます。

右上、下期の予想比です。

ファインのところは、売上高が上ぶれたのがテピックでございますが、環境化学品が下ぶれということにして、それに原燃料高が加わりました。ただ固定費が下ぶれたことが影響しまして、売上は下ぶれましたが、利益は上ぶれという結果です。

基礎化学品につきましては、メラミンの輸出、硝酸製品、尿素・アドブルーが上ぶれ。高純度硫酸、メラミンの国内が下ぶれということですが、原燃料安がプラスに作用しまして、売上、営業利益ともに上ぶれております。

合計で売上はプラス 2 億円、営業利益はプラス 3 億円です。

続いて、左下、20 年度の年間の数字でございます。

まずファインです。テピック一般、3Q から回復ということで増収。それから、減収が環境化学品とテピック電材ですが、テピック電材については 3Q からは回復傾向にございます。原燃料安もございまして、売上、利益ともにプラスとなりました。

次に基礎化学品であります。高純度硫酸、硝酸製品が増収でしたが、メラミンの内外が減収でございます。原燃料安がございましたので、売上減少、営業利益減少ですが、減益幅は非常に小さくなっております。

全体としては、売上でマイナス 24 億円ですが、利益は逆にプラスの 2 億円でした。

続いて、21 年度の予想です。

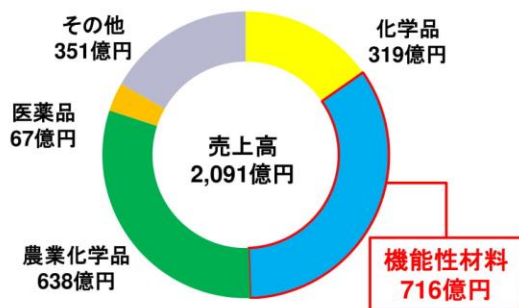
ファインは、全ての製品で増収です。在庫変動のプラスも加わりまして、売上、営業利益ともに増加の見通しです。

基礎化学品です。メラミンの輸出以外は増収と見込んでおりますが、固定費の増加と在庫変動影響のマイナスがございまして、営業利益は横ばいとなります。

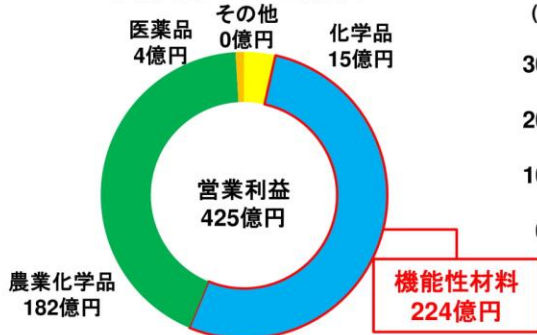
以上の結果、27 億円の増収で利益は 9 億円のプラスとなります。

## 機能性材料セグメント概況 – (A) 業績

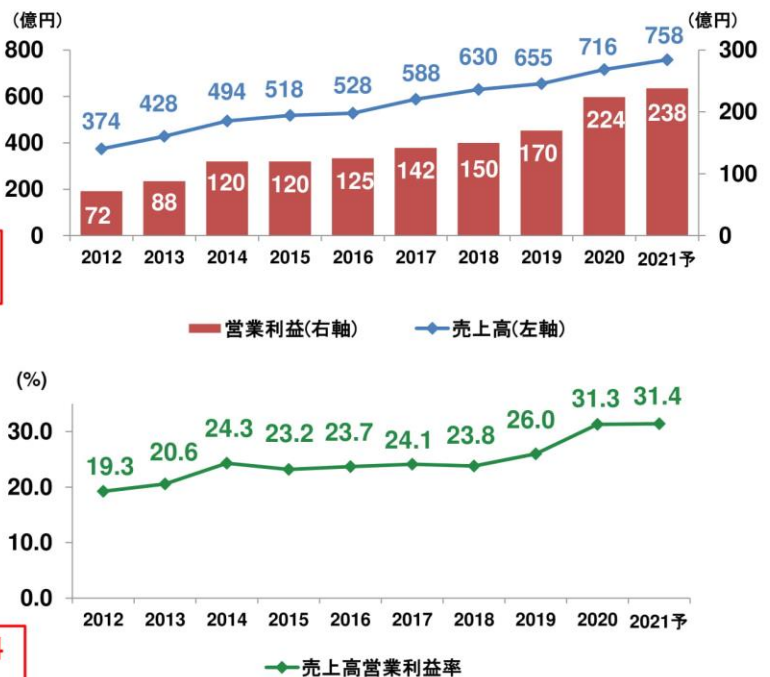
### 1. 2020年度 売上高構成



### 2. 2020年度 営業利益構成

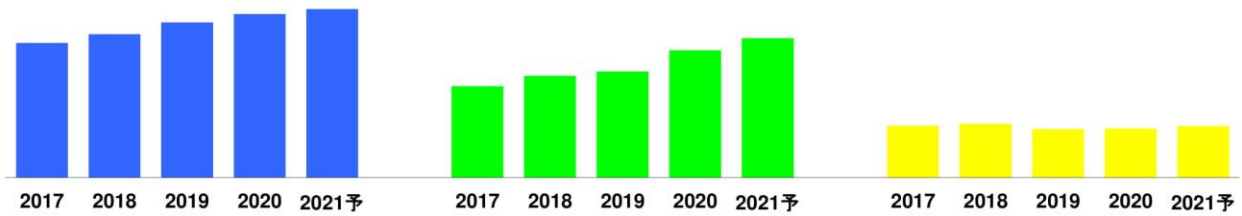


### 3. 機能性材料業績推移



続いて、機能性材料にまいります。37 ページ。総括の表です。

## 機能性材料セグメント概況 – (B) 2017-2021年度 売上高構成推移



### < ディスプレイ材料 >

サンエバー：液晶配向材用ポリイミド

### < 半導体材料 >

ARC®：半導体用反射防止コーティング材  
 多層材料：半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)

その他

新材料：EUV材料、三次元実装材  
 CMOSイメージセンサー材料等

### < 無機コロイド >

スノーテックス：研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板

オルガノゾル・

モノマーゾル：電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤

オイル&ガス材料：シェールオイル・ガス探掘効率向上材

38

続いて、38 ページが売上高の構成。

## 機能性材料セグメント概況 – (C) 主要製品売上高成長率

主要製品	前年同期比 連結売上高成長率											
	2020予想 (2020/11 発表)			2020実績					2021予想			
	上実績	下	計	上	3Q	4Q	下	計	上	下	計	
サンエバー	+7%	0%	+3%	+7%	+5%	+2%	+4%	+5%	+5%	0%	+2%	
ディスプレイ材料合計	+7%	+1%	+4%	+7%	+5%	+3%	+4%	+5%	+5%	+1%	+3%	
ARC®	KrF (ARC®)	+14%	-3%	+5%	+14%	+18%	+11%	+14%	+14%	+2%	-2%	0%
	ArF (ARC®)	+16%	+10%	+13%	+16%	+20%	+11%	+15%	+16%	+11%	+11%	+11%
ARC® 小計	+16%	+6%	+11%	+16%	+21%	+10%	+15%	+16%	+10%	+9%	+9%	
その他半導体材料 計(1)	+51%	+17%	+31%	+51%	+30%	+3%	+16%	+31%	+7%	+14%	+11%	
半導体材料合計	+25%	+9%	+16%	+25%	+23%	+8%	+15%	+20%	+9%	+10%	+10%	
スノーテックス	+2%	0%	+1%	+2%	+9%	+8%	+9%	+5%	+9%	+5%	+7%	
オルガノゾル・モノマゾル	-15%	-3%	-9%	-15%	+24%	-19%	-1%	-8%	+7%	-2%	+2%	
オイル & ガス材料	-91%	-15%	-52%	-91%	+112%	+172%	+123%	+18%	+1,483%	-39%	+17%	
無機コロイド合計	-8%	-2%	-5%	-8%	+15%	+7%	+10%	+1%	+13%	-2%	+5%	

(1) 多層材料(OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

\*NCK: 連結子会社(韓国)、DP: 半導体材料のR&D・製造・販売

◆ 半導体材料 次世代ロードマップ進行に沿った評価機器、開発設備、生産設備投資

主要投資(承認ベース):

14年 評価機器11億円

15年 開発設備28億円・評価機器8億円、増強8億円、NCK\*7億円、半導体材料研5億円

16年 NCK\*26億円、評価機器10億円、半導体材料研4億円

17年 半導体材料研4億円

18年 ARC®増強2億円、製造試験設備2億円

19年 半導体材料研1億円、製造試験設備1億円

20年 評価機器18億円、NCK\*4億円、製造試験設備2億円、ARC®増強2億円、半導体材料研2億円

21年 製造試験設備3億円、半導体材料研1億円、ARC®増強1億円、評価機器1億円

39

39 ページ、主要製品の売上の動向でございます。

まず、20年度の下期をご覧くださいますと。ディスプレイ材料、サンエバーにつきましてはプラス4%で、予想がゼロでしたので上回っております。

半導体材料ですが、15%の増収の実績でして、予想の9%よりも上回っております。

無機につきましては、プラス10%でマイナス2%の予想を上回っております。

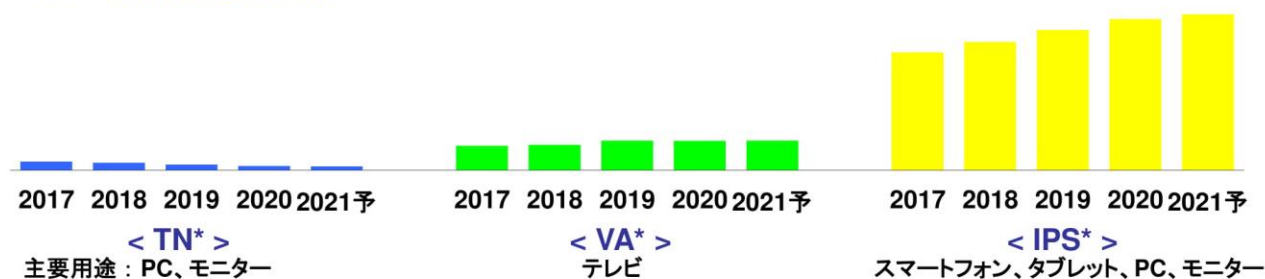
年間ではサンエバーはプラス5%、半導体材料はプラス20%、無機はプラス1%、それぞれ増収でございます。

21年度につきましては、サンエバーは年間でプラス2%、半導体材料はプラス10%、無機はプラス5%を見込んでおります。



## 機能性材料セグメント概況 – (D) サンエバー

### <モード別売上高推移>



### <モード別前年同期比売上高成長率>

	2020予想 (2020/11 発表)	2020実績	2021予想
TN	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
VA	↓	↓	↑
IPS	↑	↑	↑
サンエバー計	+3%	+5%	+2%

#### 前年同期比売上高増減

+20~+29%	↑↑↑
+10~+19%	↑↑
+0~+9%	↑
-0~-9%	↓
-10~-19%	↓↓
-20~-29%	↓↓↓

\*TN : Twisted Nematic, VA : Vertical Alignment, IPS : In-Plane Switching

40

40 ページは、サンエバーのモード別の状況でございます。

VA につきましては、20 年度実績は下矢印（減収）となっておりますが、実質的にはほぼフラットの状況でございます。21 年度はプラスに転じます。

IPS は、光 IPS の好調を主因に増収が続きます。

## 機能性材料セグメント概況 – (E-1) セグメント収益動向

(億円)

	2019実績					2020下予想 (20/11発表)			2020実績(A)					2021予想(B)					増減 (B) - (A)						
	上	3Q	4Q	下	計	3Q	4Q	下	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計
売上高	314	170	171	341	655	175	177	352	171	175	346	192	178	370	716	186	186	372	386	758	+15	+11	+26	+16	+42
営業利益	84	47	39	86	170	49	50	99	53	54	107	63	54	117	224	55	61	116	122	238	+2	+7	+9	+5	+14

半導体その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材合計

### 2020 4Q実績 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益  
光IPS増収(非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA増収、TN減収  
固定費減少3億円
- ◆ 半導体増収、増益  
ARC@増収、その他増収(多層材料増収・その他新材料減収)  
半導体市場全般好調  
固定費減少6億円
- ◆ 無機増収、増益  
スノーテックス増収(一般用途増収・研磨材増収)、  
オルガノ・モノマーゾル減収、  
オイル&ガス材料増収(3Qより新規受注獲得)  
固定費減少2億円
- ◆ 固定費減少合計11億円
- ◆ 売上高+7億円、営業利益+15億円

### 2020 4Q実績 <2020/11業績予想比>

- ◆ DP売上高下ぶれ、営業利益下ぶれ  
光IPS下ぶれ(3Qへ前倒し、スマホ下ぶれ、非スマホ上ぶれ)、  
ラビングIPS下ぶれ、VA上ぶれ、TN下ぶれ  
固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ  
ARC@上ぶれ、  
その他下ぶれ(多層材料下ぶれ・その他新材料予想通り)  
半導体市場全般好調  
固定費下ぶれ4億円(プラス要因)
- ◆ 無機売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ  
スノーテックス上ぶれ(一般用途上ぶれ・研磨材上ぶれ)  
オルガノ・モノマーゾル下ぶれ、オイル&ガス材料下ぶれ  
固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 固定費下ぶれ合計8億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+1億円、営業利益+4億円

41

続いて、41 ページから、機能性の収益の動向です。

## 機能性材料セグメント概況 – (E-2) セグメント収益動向

半導体その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材合計

### 2020下実績 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益  
光IPS増収(非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA増収、TN減収  
固定費減少1億円
- ◆ 半導体増収、増益  
ARC@増収、その他増収(多層材料増収・その他新材料増収)  
半導体市場全般好調  
固定費減少7億円
- ◆ 無機増収、増益  
スノーテックス増収(一般用途増収・研磨材増収)、オルガノ・モノマーゾル減収、オイル&ガス材料増収(3Qより新規受注獲得)  
固定費減少3億円
- ◆ 固定費減少合計11億円
- ◆ 売上高+29億円、営業利益+31億円

### 2020下実績 <2020/11業績予想比>

- ◆ DP売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ  
光IPS上ぶれ(スマホ下ぶれ、非スマホ上ぶれ)、ラビングIPS下ぶれ、VA上ぶれ、TN上ぶれ  
固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ  
ARC@上ぶれ、その他予想通り(多層材料下ぶれ・その他新材料上ぶれ)  
半導体市場全般好調  
固定費下ぶれ5億円(プラス要因)、在庫変動影響-2億円(マイナス要因)
- ◆ 無機売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ  
スノーテックス上ぶれ(一般用途上ぶれ・研磨材上ぶれ)、オルガノ・モノマーゾル上ぶれ、オイル&ガス材料上ぶれ(3Q新規受注獲得)  
固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 固定費下ぶれ合計9億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+18億円、営業利益+18億円

### 2020実績 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益  
光IPS増収(非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA減収、TN減収  
固定費増加1億円
- ◆ 半導体増収、増益  
ARC@増収、その他増収(多層材料増収・その他新材料増収)  
半導体市場全般好調  
固定費減少13億円
- ◆ 無機増収、増益  
スノーテックス増収(一般用途減収・研磨材増収)、オルガノ・モノマーゾル減収、オイル&ガス材料増収(3Qより新規受注獲得)  
固定費減少6億円
- ◆ 固定費減少合計18億円
- ◆ 売上高+61億円、営業利益+54億円

### 2021予想 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益  
光IPS増収(非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA増収、TN減収  
固定費減少1億円
- ◆ 半導体増収、増益  
ARC@増収、その他増収(多層材料増収・その他新材料増収)  
半導体市場全般好調  
固定費増加10億円
- ◆ 無機増収、減益  
スノーテックス増収(一般用途アルミナ繊維等増収・研磨材横ばい)、オルガノ・モノマーゾル増収、オイル&ガス材料増収  
固定費増加6億円
- ◆ 固定費増加合計16億円(共通費用増加1億円含む)
- ◆ 売上高+42億円、営業利益+14億円

42

42 ページ、右上、20 年度下期の予想比であります。

ご覧のとおりディスプレイ、半導体、無機、それぞれ売上、利益ともに大きく上ぶれております。

ディスプレイでは光 IPS の上ぶれ、非スマホ分野での伸びが目立っております。

半導体は ARC の上ぶれが大きく効いております。

無機のところもスノーテックスの上ぶれがございます。

いずれのサブセグメントも固定費が下ぶれておりまして、全体で売上が 18 億円、営業利益も 18 億円増額となりました。

左下、20 年度年間の前年比でございます。

ディスプレイ、半導体、無機、それぞれ増収増益となりました。

ディスプレイのところは、固定費が 1 億円ほど増えましたが、光 IPS の増収で全体を牽引いたしました。半導体は引き続き市場が好調で、大きな固定費の減少もございました。無機も増収と固定費の減少で増益。

全体で、61億円の増収、54億円の増益となりました。

続いて、21年度の予想でございます。

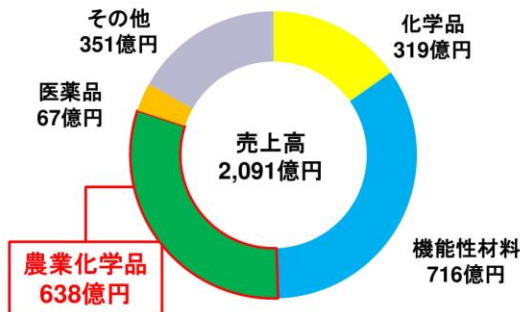
ディスプレイですが、増収増益となります。光IPSの増収が続くと同時に、VAにつきましても増収となります。

半導体は引き続きARC、その他材料の増収が続きます。無機でございますけれども、増収ですが、こちらは固定費がやや大きく増えるというところから減益となります。

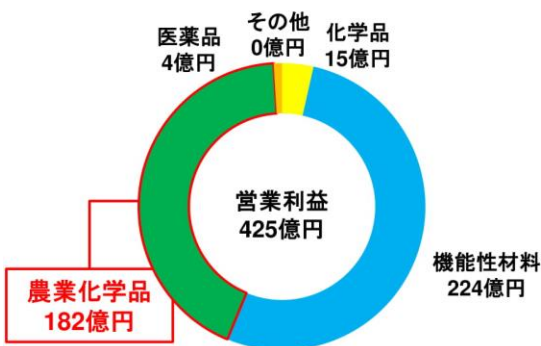
全体としますと、売上で42億円、営業利益で14億円の増益でございます。

## 農業化学品セグメント概況－(A)業績

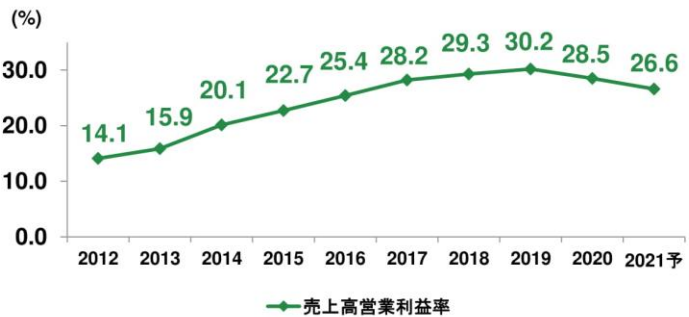
### 1. 2020年度 売上高構成



### 2. 2020年度 営業利益構成



### 3. 農業化学品業績推移



43

続いて、43ページ、農業化学品にまいります。

農業化学品の総括が43ページです。

## 農業化学品セグメント概況－(B) 主要製品売上高成長率(値引前)

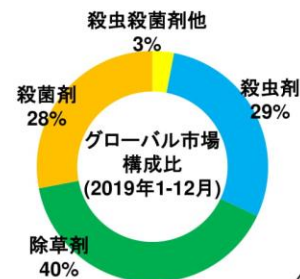
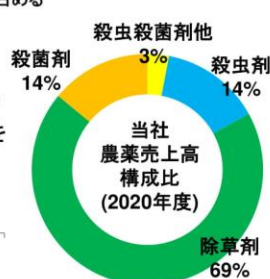
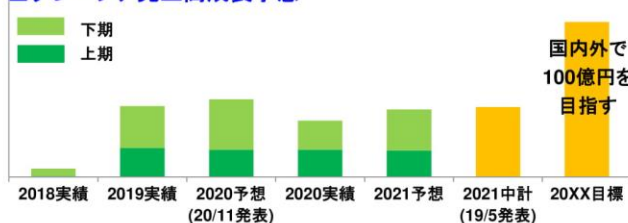
主要製品名 (2020年 売上高順)	種類	前年同期比 連結売上高成長率			
		2019実績	2020予想 (2020/11発表)	2020実績	2021予想
ラウンドアップ(1)	除草	+6%	0%	0%	+4%
フルララネル	動物薬	-9%	-11%	-12%	-11%
アルテア	除草	+4%	+16%	+11%	0%
タルガ	除草	-19%	+4%	-1%	+1%
グレーシア	殺虫	+700%以上	+10%	-20%	+20%
パーミット	除草	+8%	-5%	+8%	-22%
ライメイ	殺菌	-16%	+11%	+20%	+22%
クインテック	殺菌	-	+25%	-8%	+61%
ダイセン	殺菌	-	-	-	+200%以上
農業化学品 セグメント合計	-	+3%	+1%	0%	+4%

◆国内農業販売額第1位  
(2018年10月～2019年9月)

⇒2020年1月22日開催  
ラウンドアップの現状説明会資料参照  
[https://www.nissanchem.co.jp/news\\_release/news/n2020\\_01\\_23.pdf](https://www.nissanchem.co.jp/news_release/news/n2020_01_23.pdf)

(1) ラウンドアップマックスロードALは2020年度ラウンドアップ売上高全体の22%を占める

### ■グレーシア売上高成長予想



44

44 ページ、農業化学品の主要製品の動きでございます。

中ほどの 20 年度の実績のパーセンテージをご覧ください。

まず、ラウンドアップですが、前年比フラットです。こちらはマックスロードが 19 年度に大規模なキャンペーンがございましたことと、19 年度は消費税増税前の駆け込み需要がございました。20 年度はその反動で減収となりました。

一方、AL は引き続き拡販、それから流通ルート of 拡大もございまして増えました。その結果、ラウンドアップ合計ではちょうどプラマイゼロということとなりました。

フルララネルにつきましては、原薬は引き続きの在庫調整で減収、ロイヤリティ収入の増もございましたが合計ではマイナス 12% の着地でした。

アルテアにつきましては、新世代の製品の投入、それから輸出の回復でプラスとなっておりますが、予想比ではやや強気の予想でございましたので下回った結果です。

一つ置いて、グレーシアですが、大幅なマイナスとなっております。こちらは上期に低温で害虫が少なかったこと、下期は 3Q での長雨の結果、やはり害虫が少なかったこと。それから、相当の流通在庫があるというところから減収ということとなりました。

クインテックですが、マイナス 8%という数字になっておりますが、こちらは生産委託をしております委託先での生産の遅延が大きく響いております。

最後、ダイセンが1月から国内で販売を開始しております。

以上の結果、グレースシアだけについて見ますと、下の棒グラフのとおり、20年度の実績値は予想を大きく下回った結果となっております。21年度は増収に反転する見込みです。

## 農業化学品セグメント概況－(C)直近の農薬製品買収

### ◆クインテック(キノキシフェン)

- ・2019年11月米国コルテバ社より事業を買収
- ・2019年12月販売開始
- ・クインテック = キノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹、野菜用殺菌剤、主な市場は米国
- ・果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

### ◆ダイセン(マンゼブ)

- ・2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- ・2021年1月国内販売開始
- ・ダイセン = マンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用保護殺菌剤、耐雨性に優れる
- ・監査後無形固定資産の償却期間は、資産の種類別に5年・16年(定額法)(加重平均15.6年)で確定(監査前は5年で仮計算)

<ダイセン収益予想>

監査後、2020年12月21日プレスリリースより変更あり(億円)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	3	4
2021	7	11
2022-26計	36	53

45

続いて、45 ページ。

最近、買収しました2剤、クインテックとダイセンのまとめがございます。

## 農業化学品セグメント概況- (D) 主要製品

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバソン	殺虫剤	導入	米国デュポン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤 2016年ALⅡ、2018年ALⅢ上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社*向けにプラベクト原薬として出荷開始
2014	プラベクト**	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイス シンジエンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト**	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない 2018年韓国で上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収 果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収 果樹野菜用の保護殺菌剤、耐雨性に優れる
新製品パイプライン				
2023	未定(ピラプロボイン)(NC-241)	殺菌剤	自社開発	汎用性(ピーク時売上高目標50億円)
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや 難防除雑草クログワイに高い効果を持つ (ピーク時売上高目標30億円)
2027	未定(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ、アゼガヤ)に優れた効果を持つ 当社初の水稲用茎葉散布除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

\*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

\*\*プラベクト、エグゾルト:MSD社の販売製品名

◆2020年度連結実績 輸出比率:39%(アジア25%、欧州・アフリカ60%、北・中南米15%) ※フルララネルを含める

**新製品群(グレーシア、クインテック、ダイセン、NC-241、653、656)のピーク売上高目標合計330億円**

46

それから、46 ページ。

当社の主要製品の上市時期ですが、これは前回のご報告と変更はございません。

## 農業化学品セグメント概況－(E-1)フルララネル

### ◆フルララネル(Fluralaner)

- BRAVECTO・EXZOLTの有効成分として、当社がMSD社\*に供給
- BRAVECTOシリーズ・EXZOLTは現在100か国以上で販売中
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許  
・2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり  
・UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

\*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の  
MSD Animal Health 社の略称

### ◆ブラベクト(BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬で、犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間\*\*にわたって持続する  
\*\*クリイロコイタマダニは8週間
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)  
2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市  
2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)  
(猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市  
(犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市



### ◆ブラベクトプラス(BRAVECTO Plus)

- 猫向け外内部寄生虫スポットオン合剤  
2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

### ◆エグゾルト(EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)  
2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年4月日本販売承認

47

続きまして、47 ページ。フルララネルの解説です。

こちらも大きな変更はございませんが、ブラベクトのところで犬向けのスポットの製品が日本でこの1月に上市をされております。

それから、ブラベクトプラス、こちらも日本で上市をされております。

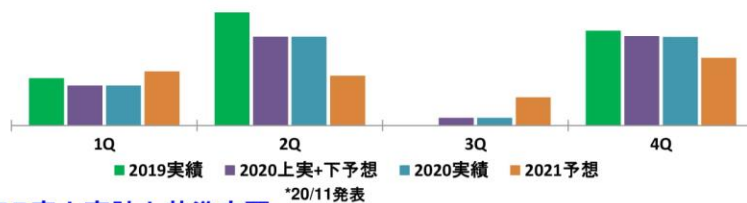


## 農業化学品セグメント概況－(E-2)フルララネル

### ◆当社売上高構成

MSD社へのフルララネル販売、MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)収入

### ◆2019～2021年四半期別売上高推移(ロイヤリティ収入含む)



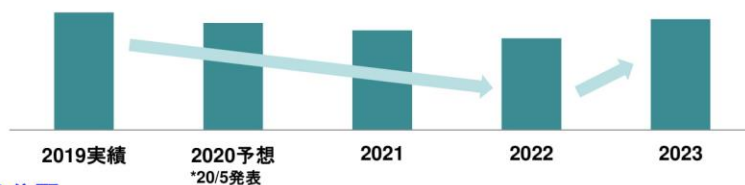
### ◆2021年度よりRR売上高計上基準変更

(2020年度まで)MSD売上高1-6月分:8月計上、同7-12月分:2月計上

(2021年度より)MSD売上高1-3月分:5月計上、同4-6月分:8月計上、  
同7-9月分:11月計上、同10-12月分:2月計上

### ◆2019～2023年売上高推移イメージ(2020年5月作成)

- ・ブラベクト売上高は順調に成長
- ・一方、フルララネルは在庫調整が継続すると見られ、  
売上高(ロイヤリティ収入含む)は2022年まで減少、2023年に回復の見込み



### ◆ブラベクトの開発分野

ペット向けに新たな内外寄生虫薬等、家畜向け経皮投与剤を開発中

48

48 ページがフルララネルの状況です。

二つ目のところ、四半期別の売上の状況を書いています。

冒頭申し上げましたとおり、ロイヤリティの売上の計上月が変わりますので、ロイヤリティ収入が各四半期に分散される数字となっております。

2019年度から2023年度の売上推移のイメージ。これは昨年の5月にお話ししたイメージですが、現状ではこれを変えるような要因はございませんので、このとおり推移しております。

## 農業化学品セグメント概況- (F) インド合弁会社の設立

### Nissan Bharat Rasayan Private Limited (NBR) 概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon) (ニューデリー近郊)				
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設(土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)				
営業開始日	2020年4月1日				
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ、クインテック等)原体、中間体を製造し、当社へ販売				
従業員数	150-200名(2022年想定)				
工場稼働予定	2022年度2Q				
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%				
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名				
		< 資金計画(億円) >			
		設備投資	43	資本金(15億ルピー)	23
		運転資金他	24	当社貸付	33
				現地銀行借入	11
		所要資金合計	67	資金調達合計	67

### Bharat Rasayan Ltd (BRL) 概要

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)	< 当社連結営業利益への貢献予想(2020年5月発表)(概算、億円) >					
上場	インド国立証取(NSE)、ボンベイ証取(BSE)	年度	2021	2022	2023	2024	2025
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業者一族74.8%	営業利益	-3	5	12	20	32
損益状況	2019年度売上高12,151百万ルピー、税引後利益1,576百万ルピー						
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana)ロータク(Rohtak)の2工場						
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Insecticides Ltd(BIL)がタルガ、パルサー、パーミットをインド国内で販売						

### 当社メリット

- ・信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- ・有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- ・国内工場に比べて低い製造コスト
- ・すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- ・既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

49

続いて、49 ページがインドの合弁会社の状況です。

こちらは今、順調に推移してございます。

ただ、日本からの駐在社員につきましては、コロナでございますので、いったん今は帰国している状況ですが、基礎工事は今、開始をされている状況です。

## 農業化学品セグメント概況 – (G-1) セグメント収益動向

(億円)

	2019実績					2020下予想 (20/11発表)			2020実績(A)					2021予想(B)					増減 (B) - (A)						
	上	3Q	4Q	下	計	3Q	4Q	下	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計
売上高	279	55	306	361	640	82	307	389	146	111	257	63	318	381	638	145	103	248	414	662	-1	-8	-9	+33	+24
営業利益	94	-18	117	99	193	-7	116	109	40	38	78	-13	117	104	182	38	20	58	118	176	-2	-18	-20	+14	-6

### 2020 4Q実績 <前年同期比>

- ◆ 増収: ダイセン(4Q販売開始)、アルテア(国内・輸出)、ライメイ(国内・輸出)、グレーシア(輸出)、パーミット(輸出)
- ◆ 減収: グレーシア(国内)、クインテック(輸出)、フルララネル(プラベクト在庫調整影響)、ラウンドアップ(ML減収、AL増収)、タルガ(輸出)
- ◆ 固定費減少2億円
- ◆ 棚卸評価損-2億円(マイナス要因)
- ◆ 在庫変動影響-3億円(マイナス要因)
- ◆ 売上高+12億円、営業利益横ばい

### 2020 4Q実績 <2020/11業績予想比>

- ◆ 売上高上ぶれ: ダイセン(4Q販売開始)、ライメイ(国内・輸出)、グレーシア(輸出)、パーミット(輸出)、クインテック(輸出)
- ◆ 売上高予想通り: フルララネル
- ◆ 売上高下ぶれ: グレーシア(国内)、ラウンドアップ(ML・AL)、アルテア(国内・輸出)、タルガ(輸出)
- ◆ 固定費上ぶれ1億円(マイナス要因)
- ◆ 棚卸評価損-2億円(マイナス要因)
- ◆ 在庫変動影響-1億円(マイナス要因)
- ◆ 売上高+11億円、営業利益+1億円

51

続いて、51 ページ。セグメントの収益動向です。

## 農業化学品セグメント概況 – (G-2) セグメント収益動向

2020下実績 <前年同期比>	2020下実績 <2020/11業績予想比>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: ダイセン(4Q販売開始)、アルテア(国内・輸出)、パーミット(輸出)、ライメイ(国内・輸出)、タルガ(輸出)、グレーシア(輸出)、ラウンドアップ(ML・AL)、フルララネル(RR)</li> <li>◆ 減収: グレーシア(国内)(長雨、在庫調整)、クインテック(輸出)</li> <li>◆ 固定費減少3億円(うちクインテック、ダイセン償却費増加2億円)</li> <li>◆ 棚卸評価損-2億円(マイナス要因)</li> <li>◆ 在庫変動影響-4億円(マイナス要因)</li> <li>◆ 売上高+20億円、営業利益+5億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 売上高上ぶれ: ダイセン(4Q販売開始)、パーミット(国内・輸出)、ライメイ(国内・輸出)</li> <li>◆ 売上高予想通り: フルララネル、ラウンドアップ(ML・AL)</li> <li>◆ 売上高下ぶれ: グレーシア(国内)(長雨、在庫調整)、アルテア(国内・輸出)、クインテック(輸出)、タルガ(輸出)</li> <li>◆ 固定費下ぶれ1億円(プラス要因)(ダイセン償却費増加1億円)</li> <li>◆ 棚卸評価損-2億円(マイナス要因)</li> <li>◆ 在庫変動影響+2億円(プラス要因)</li> <li>◆ 売上高-8億円、営業利益-5億円</li> </ul>
2020実績 <前年同期比>	2021予想 <前年同期比>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: ダイセン(4Q販売開始)、アルテア(国内・輸出)、グレーシア(輸出)、ライメイ(国内・輸出)、パーミット(輸出)</li> <li>◆ 横ばい: ラウンドアップ(AL増収、ML減収)</li> <li>◆ 減収: フルララネル(ブラケット在庫調整)、グレーシア(国内)(低温・長雨、在庫調整)、クインテック(輸出)、タルガ(輸出)</li> <li>◆ 固定費増加3億円(うちクインテック、ダイセン償却費増加6億円)</li> <li>◆ 棚卸評価損-2億円(マイナス要因)</li> <li>◆ 在庫変動影響-2億円(マイナス要因)</li> <li>◆ 売上高-2億円、営業利益-11億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 増収: ダイセン(国内・輸出)、グレーシア(国内)、クインテック(輸出)、ライメイ(輸出)、ラウンドアップ(ML・AL)、タルガ(輸出)</li> <li>◆ 横ばい: アルテア(国内減収、輸出増収)</li> <li>◆ 減収: フルララネル(ブラケット在庫調整)、パーミット(国内・輸出)、グレーシア(輸出)</li> <li>◆ 固定費増加12億円(うちダイセン償却費増加2億円)</li> <li>◆ 棚卸評価損+3億円(20年度評価損計上・21年度計上なし、プラス要因)</li> <li>◆ 売上高+24億円、営業利益-6億円</li> </ul>

52

52 ページ、右上、20 年度下期実績の業績予想比をご覧ください。

売上高が上ぶれたのがダイセン、それからパーミット、ライメイ。フルララネルとラウンドアップはほぼ予想どおりでした。下ぶれたのが国内グレーシア、それからアルテア、クインテック、タルガとなります。

固定費の下ぶれに在庫変動のプラス影響がありましたが、棚卸の評価損のマイナス要因がございまして、全体としては営業利益でマイナス 5 億円の下ぶれでございました。

続いて左下、20 年度の年間実績でございまして。

増収はダイセン、アルテア、輸出グレーシア、ライメイ、パーミット。横ばいがラウンドアップ。減収がフルララネル、国内グレーシア、クインテック、タルガということとなります。

固定費の増加、ダイセン、クインテックの償却の増加がございまして。

それから棚卸の評価損と在庫の変動でマイナス要因がございまして、売上がマイナス 2 億円ですが、営業利益はマイナス 11 億円という結果となりました。

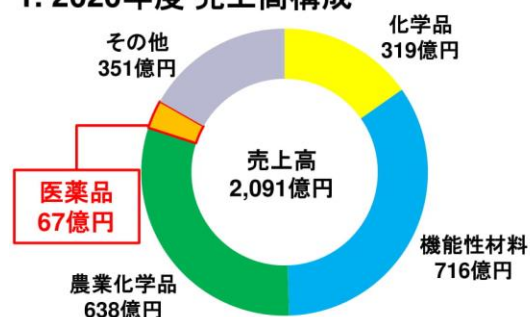
続いて、21年度の予想です。

増収はご覧のとおり、ダイセン、国内グレースシア、クインテック、ライメイ、ラウンドアップという  
ことです。アルテアは横ばい。フルララネルは引き続き在庫調整で減収。パーミット、グレース  
シアの輸出も減収となります。

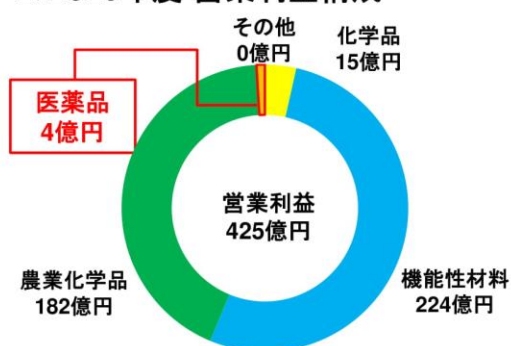
固定費の増加、12億円と大きく見込んでおりますので、売上は24億円増えますが、営業利益はマ  
イナスの6億円という予想でございます。

## 医薬品セグメント概況 – (A) 業績

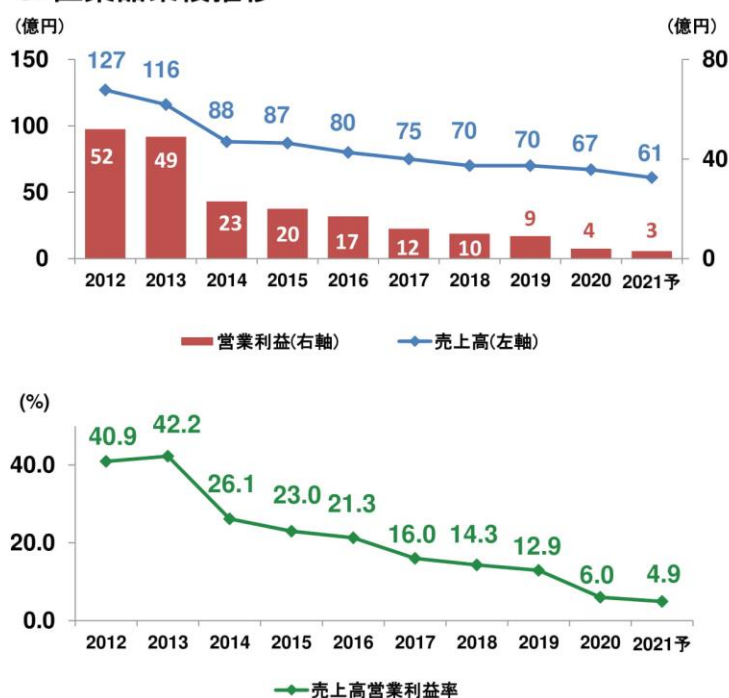
### 1. 2020年度 売上高構成



### 2. 2020年度 営業利益構成



### 3. 医薬品業績推移

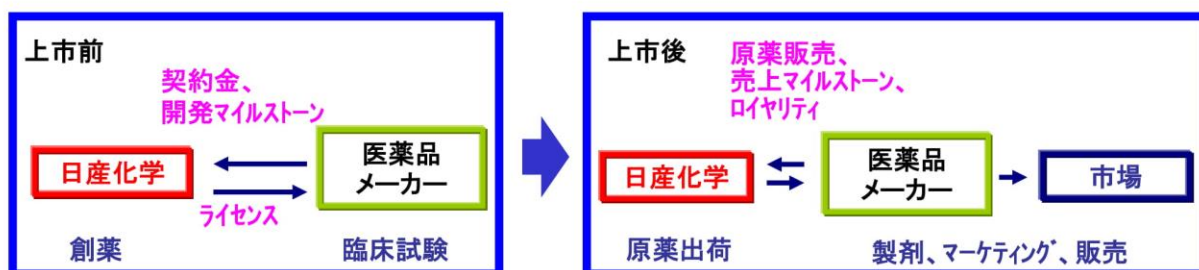


53

続いて、医薬品でございます。53ページにまいります。医薬品の総括が53ページ。

## 医薬品セグメント概況 – (B) 新薬ビジネスモデルとリバロ

- ◆ 創薬、開発に特化し、販売部門を有さないユニークな医家向け医薬ビジネスモデル



- ◆ リバロ原薬(高コレステロール血症治療薬)

売上高	2013 実績	2014 実績	2015 実績	2016 実績	2017 実績	2018 実績	2019 実績	2020 実績	2021 予想
国内末端(薬価ベース、億円)	526	345	297	239	210	167	143	120	-
当社原薬(国内外合計、億円)	102	69	58	52	48	43	40	28	20
当社原薬 前年同期比成長率	-2%	-32%	-15%	-11%	-7%	-11%	-7%	-30%	-27%
(うち国内)	(-2%)	(-46%)	(-27%)	(-42%)	(-73%)	(-53%)	(+105%)	(+6%)	(-13%)
(うち海外)	(-1%)	(+21%)	(+5%)	(+26%)	(+29%)	(-6%)	(-14%)	(-35%)	(-30%)

- 2013年8月 国内物質特許満了
- 2020年8月 欧州で市場独占期間満了
- 現在28か国で販売中

54

続いて、54 ページがリバロです。

この下の表のとおり、リバロ国内のところが20年度は在庫調整が終わってプラスに転じましたが、21年度はもう一度減っていくと。

一方、海外は17年度までは非常に堅調に増えておりましたが、欧州の市場独占期間が終了したということもありまして、20年度大きく減少しておりました。21年度もそれが続くという予想でございます。

## 医薬品セグメント概況 – (C) パイプライン

開発品	作用機序	適応症候補	パートナー
NTC-801	・アセチルコリン感受性カリウムチャンネル(IKACH)阻害	・不整脈 (心房細動など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝人ファーマ、フリストルマイヤーズ・スクイブとのライセンス契約終了(2015/9)</li> <li>・新たな導出先検討中</li> <li>・AMED*革新的医療シーズ実用化研究事業に採択(2018/9)</li> <li>・大阪大学と医師主導治験を実施中</li> </ul>

\*国立研究開発法人日本医療研究開発機構

### <創薬研究方針>

戦略的に構築した化合物ライブラリ、精密有機合成力、独自の核酸構造、最先端の評価技術を駆使して、革新的な医薬品を創り出す

#### ◆ 自社創薬研究

・イオンチャンネル評価力を基軸に循環器疾患領域と神経疾患領域に集中

#### ◆ 戦略的共同研究

・低分子創薬および核酸創薬について、製薬企業およびバイオベンチャー数社と共同研究を実施中

55

続いて、55 ページ。医薬品セグメントのパイプライン。こちらは変更ございません。

## 医薬品セグメント概況 – (D) ファインテック

- ◆ 医薬品技術開発型受託事業で、前臨床から商業生産まで、新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託
- ◆ 加えて高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心として、新規案件獲得に注力
  - 2016年～マキサカルシトール(角化治療薬、二次性副甲状腺機能亢進症)
  - 2017年～エルデカルシトール(骨粗しょう症治療薬)

### ◆ ファインテック売上高推移

(億円)

	2013 実績	2014 実績	2015 実績	2016 実績	2017 実績	2018 実績	2019 実績	2020 実績	2021 予想
売上高	12	18	23	24	25	26	29	38	39

前年同期比 連結売上高成長率								
2020予想 (2020/11発表)			2020実績			2021予想		
上	下	計	上	下	計	上	下	計
+12%	+46%	+30%	+12%	+45%	+30%	+28%	-11%	+5%

56

56 ページ。ファインテックの状況です。

ここに表がございますとおり、13年度は12億円の売上でしたが、現在はその3倍超、38億円という規模になっており、創薬の減益を大きくカバーしてございます。



## 医薬品セグメント概況 – (E) 今後の医薬品事業戦略(2020/5発表)

### 1. 創薬

#### (1) 収益化モデルの改革

◆ 研究初期から全ての研究開発ステージで技術と化合物の導出を狙う

##### A. 自社創薬

(現在)臨床試験直前段階ではじめて導出

(今後)臨床試験以前の探索段階で、導出候補先の評価も踏まえ、提携と導出を判断

##### B. 共同創薬

◆ 自社の創薬技術(核酸創薬プラットフォームなど)をパートナーに提供し、収益につなげる

◆ 当社の核酸技術の強み…独自の修飾核酸構造

#### (2) R&D投入資源の効率化

A. 創薬開発要員を2年で10人削減

B. 研究開発費用を25億円程度で固定

#### (3) 創薬テーマ数を現状18テーマから10テーマに絞り込み

### 2. ファインテック(FT)

(1) 当面のリバロ中心の創薬事業減収を、ファインテック事業拡大で支える

(2) マキサカルシトール、エルデカルシトールに続く高活性・高付加価値GE原薬の新規案件獲得、ペプチド受託を狙う

### 3. 収益イメージ

(億円)

		2019	2020	2020	2021
		実績	予想 (20/11発表)	実績	予想 (21/5発表)
売上高	創薬	40.6	30.0	28.8	21.4
	FT	29.0	37.9	37.7	39.3
	計	69.6	67.9	66.5	60.7
営業利益	創薬	-1.2	-8.5	-9.3	-15.1
	FT	10.5	14.1	12.9	17.9
	計	9.3	5.6	3.6	2.8

57

57 ページ。医薬品の事業戦略の変更。

これについては2020年5月発表から変更はございません。

## 医薬品セグメント概況 – (F-1) セグメント収益動向(1)

(億円)

	2019実績					2020下予想 (20/11発表)			2020実績(A)							2021予想(B)					増減 (B)-(A)				
	上	3Q	4Q	下	計	3Q	4Q	下	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q	2Q	上	下	計
売上高	34.3	15.3	20.0	35.3	69.6	15.5	22.1	37.6	15.0	15.3	30.3	13.9	22.3	36.2	66.5	8.9	20.5	29.4	31.3	60.7	-6.1	+5.2	-0.9	-4.9	-5.8
創薬	21.0	9.3	10.3	19.6	40.6	5.6	9.1	14.7	7.4	7.9	15.3	5.8	7.7	13.5	28.8	4.9	5.4	10.3	11.1	21.4	-2.5	-2.5	-5.0	-2.4	-7.4
FT	13.3	6.0	9.7	15.7	29.0	9.9	13.0	22.9	7.6	7.4	15.0	8.1	14.6	22.7	37.7	4.0	15.1	19.1	20.2	39.3	-3.6	+7.7	+4.1	-2.5	+1.6
営業利益	5.3	0.2	3.8	4.0	9.3	0.6	4.7	5.3	-0.7	1.0	0.3	-0.4	3.7	3.3	3.6	-3.3	5.2	1.9	0.9	2.8	-2.6	+4.2	+1.6	-2.4	-0.8
創薬	0.5	-1.7	0.0	-1.7	-1.2	-3.5	-1.4	-4.9	-2.2	-1.4	-3.6	-3.6	-2.1	-5.7	-9.3	-4.0	-3.1	-7.1	-8.0	-15.1	-1.8	-1.7	-3.5	-2.3	-5.8
FT	4.8	1.9	3.8	5.7	10.5	4.1	6.1	10.2	1.5	2.4	3.9	3.2	5.8	9.0	12.9	0.7	8.3	9.0	8.9	17.9	-0.8	+5.9	+5.1	-0.1	+5.0

(1) p17,18,19,20,77,78では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

### 2020 4Q実績

<前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内増収、輸出減収)  
◆ 売上高-2.6億円、営業利益-2.1億円
- (FT) ◆ 増収(GE品堅調)  
◆ 棚卸評価損-1億円(原料価格低下)(マイナス要因)  
◆ 売上高+4.9億円、営業利益+2.0億円
- (合計) ◆ 売上高+2.3億円、営業利益-0.1億円

### 2020 4Q実績

<2020/11業績予想比>

- (創薬) ◆ リバロ売上高下ぶれ(国内上ぶれ、輸出下ぶれ)  
◆ 固定費上ぶれ1億円(マイナス要因)  
◆ 在庫変動影響+1億円(プラス要因)  
◆ 売上高-1.4億円、営業利益-0.7億円
- (FT) ◆ 売上高上ぶれ(3Qからの後ろ倒し)  
◆ 棚卸評価損-1億円(原料価格低下)(マイナス要因)  
◆ 在庫変動影響-1億円(マイナス要因)  
◆ 売上高+1.6億円、営業利益-0.3億円
- (合計) ◆ 売上高+0.2億円、営業利益-1.0億円

59

## 医薬品セグメント概況 – (F-2) セグメント収益動向

### 2020下実績

<前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内減収、輸出減収)  
◆ 固定費減少1億円  
◆ 売上高-6.1億円、営業利益-4.0億円
- (FT) ◆ 増収(GE品堅調)  
◆ 固定費増加1億円  
◆ 棚卸評価損-1億円(原料価格低下)(マイナス要因)  
◆ 売上高+7.0億円、営業利益+3.3億円
- (合計) ◆ 売上高+0.9億円、営業利益-0.7億円

### 2020下実績

<2020/11業績予想比>

- (創薬) ◆ リバロ売上高下ぶれ(国内上ぶれ、輸出下ぶれ)  
◆ 売上高-1.2億円、営業利益-0.8億円
- (FT) ◆ 売上高下ぶれ(出荷調整)  
◆ 棚卸評価損-1億円(原料価格低下)(マイナス要因)  
◆ 売上高-0.2億円、営業利益-1.2億円
- (合計) ◆ 売上高-1.4億円、営業利益-2.0億円

### 2020実績

<前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内増収、輸出減収)  
◆ 固定費減少3億円  
◆ 売上高-11.8億円、営業利益-8.1億円
- (FT) ◆ 増収(GE品堅調)  
◆ 固定費増加1億円  
◆ 棚卸評価損-2億円(原料価格低下)(マイナス要因)  
◆ 在庫変動影響-2億円(マイナス要因)  
◆ 売上高+8.7億円、営業利益+2.4億円
- (合計) ◆ 売上高-3.1億円、営業利益-5.7億円

### 2021予想

<前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内減収、輸出減収)  
◆ 固定費増加1億円  
◆ 売上高-7.4億円、営業利益-5.8億円
- (FT) ◆ 増収(出荷量増加)  
◆ 棚卸評価損+2億円  
(20年度評価損計上・21年度計上なし、プラス要因)  
◆ 固定費減少1億円  
◆ 在庫変動影響+1億円(プラス要因)  
◆ 売上高+1.6億円、営業利益+5.0億円
- (合計) ◆ 売上高-5.8億円、営業利益-0.8億円

60

続いて、医薬品の収益動向、59 ページですが、60 ページの下期の業績予想比から申し上げますと。

創薬は利益下ぶれ。それからファインテックも棚卸の評価損がございまして利益下ぶれで。全体でマイナス 2 億円の利益の下ぶれでございました。

次に 20 年度の年間実績、左下です。

創薬は利益がマイナス 8 億円。一方、ファインテックはマイナス要因として棚卸の評価損、在庫変動要因がございましたが、2.4 億円の増益を確保してございます。合わせて利益はマイナス 5.7 億円です。

その右側が 21 年度の予想です。

創薬は引き続きリバロの減収がございますので利益はマイナス 5.8 億円。ファインテックにつきましては利益プラス 5 億円を見込んでおりますので、営業利益はマイナス 0.8 億円という水準を予想しております。

## セグメント別 設備投資・減価償却・研究開発費用

(億円)

	設備投資 (1)						減価償却 (2)						研究開発費用						売上高比率(4)
	2016	2017	2018	2019	2020	2021E	2016	2017	2018	2019	2020	2021E	2016	2017	2018	2019	2020	2021E	
化学	20	26	20	31	49	44	16	17	18	19	22	29	5	6	6	4	3	3	0.9%
機能性	84	72	33	33	32	56	48	59	60	52	45	41	79	81	82	77	70	73	9.6%
農業化学 (3)	24	26	33	79	64	18	13	14	17	23	26	28	38	43	45	46	44	45	6.8%
医薬	9	7	5	6	5	7	7	7	6	6	5	6	22	25	25	25	24	24	39.3%
卸売	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	-
その他	6	6	7	7	7	8	4	7	7	4	5	4	17	17	20	20	24	23	-
合計	143	137	99	157	158	134	89	105	109	105	104	109	161	172	178	172	165	168	
	(売上高研究開発費比率(4))												8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	9.8%	

(1) 設備投資額  
実績 - 検収ベース  
予想 - 稼働開始ベース

(2) 減価償却法  
サンエバー、ARC®、多層材料 - 4年定率(初年度50%を償却)  
その他製品 - 8年定率(初年度25%を償却)

研究所総合職人員(20/9)-①	460
総合職人員(20/9)-②	1,190
①/②	39%

※単体ベース(海外駐在員含む)  
※概数

(3) 2019年クインテック買収(63億円)、2020年ダイセン買収(54億円)を含む

(4) 2021予想: 会計方針の変更による売上高減少446億円影響有り(p2, 14参照)

61 ページは償却・投資・研究開発費でございます。

研究開発費につきましては、20年度いったん落ちましたが、21年度は若干戻る予想でございます。

## 主要設備投資(承認ベース)

(億円)

2018実績		2019実績		2020見込		2021予想	
項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
物質研(機器)	7	シアヌル酸(1)増強	19	情報システム関連	15	農業(製造設備)	30
材料研(機器)	7	物質研(機器)	7	材料研(機器)	14	DP(製造設備)	14
農業(開発新棟)	6	材料研(機器)	6	農業(製造設備)	9	情報システム関連	13
NSU R&Dセンター	5	DP(製造設備)	5	半導体分析機器	8	物質研(機器)	8
テピック増強	5	生物科学研(機器)	3	物質研(機器)	7	材料研(機器)	6
生物科学研(機器)	4	テピック(製造設備)	2	NCK 半導体増強	4	半導体製造試験	3
半導体製造試験	2	(1) ファインケミカル(p32参照)		生物科学研(機器)	2	生物科学研(機器)	3
スノーテックス増強	2						

62

62 ページは主要な投資です。

## ESGへの取り組み

### ◆ ESGインデックス等

- 2017年～ 健康経営優良法人ホワイト500に5年連続認定  
 2020年6月 S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に2年連続で選定  
 FTSE4Good Index SeriesおよびFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に選定  
 2020年8月 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明  
 2020年10月 「統合レポート2020」を発行 ([https://www.nissanchem.co.jp/ir\\_info/archive/ar/ar2020.pdf](https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/ar/ar2020.pdf))  
 2020年11月 Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index の構成銘柄に3年連続で選定  
 2020年12月 CDP 水セキュリティにおいて「Aリスト」に2年連続選定  
 2021年1月 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定
- 中期経営計画Vista2021(2016-2021年度)目標:  
 2021年度までに、2011年度比 20%削減 → 2019年度の段階で、2011年度比 27%削減を達成済  
 新長期目標:2030年度までに、2018年度比 30%削減

温室効果ガス(GHG)排出量(CO2換算、千トン)

年度	2011	2018	2019	2021	2030
中期経営計画Vista2021	-	-	-	359	-
実績	448	363	327	-	-
新長期目標	-	-	-	-	254
大手総合化学5社平均	-	-	5,069	-	-

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定

### ◆ ガバナンス

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)  
 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)  
 2021年6月(予定) 女性取締役1名選任予定(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)
- ◆ 東京証券取引所「企業価値向上表彰」表彰候補50社に選定  
 2020年1月 2019年度「企業価値向上表彰」の表彰候補として、上場企業約3,600社中50社に2年連続選定  
 (2020年度東証は表彰見送り)
- ◆ ディスクロージャー優良企業を受賞  
 2020年10月 証券アナリスト協会「ディスクロージャー優良企業選定」にて化学・繊維部門の第1位に初選定

63

63 ページ。ESG の取り組みでございます。

前回の報告以降で主なところで申し上げます。

まず 21 年 1 月、温室効果ガスの削減の長期目標を改定いたしまして、2030 年度までに 18 年度比で 30%削減するという目標としております。

それから、4 月にダイバーシティステートメント、ビジョンを発表いたしました。

ガバナンスのところでは、21 年 6 月、来月の取締役会におきまして初の女性の取締役を 1 名選任の予定でございます。その結果 6 月以降は、取締役は 10 名のうち社外が 4 名という体制となります。

## 中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)(2019年5月発表)- (A)

### 1. PL(1)

	2018	2021	2021	2021
	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/5発表)
売上高	2,049	2,500	2,350	1,725
営業利益	371	400	430	436
経常利益	391	408	440	449
当期純利益	294	310	330	341
EPS(円/株)	197.67	-	230.00	239.18
配当(円/株)	82	-	-	108
為替レート(円/%)	111	115	110	107
ナフサ(円/kl)	49,700	51,100	43,000	-
原油(JCC)(%/bbl)	-	-	64	55

(億円)

(経営指標)	2018	2021	2020、2021	2021
	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/5発表)
売上高営業利益率	18.1%	15%以上	18%以上	25.3%
ROE	16.6%	14%以上	16%以上	17.0%
配当性向	41.5%	40%	45%	45.2%

(億円)

### 2. セグメント(1)(2)

	売上高				営業利益			
	2018	2021	2021	2021	2018	2021	2021	2021
	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/5発表)	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/5発表)
化学品	357	405	431	346	30	45	51	24
機能性材料	630	829	751	758	150	184	173	238
農業化学品	627	670	701	662	184	167	211	176
医薬品	70	83	75	61	10	24	7	3
卸売・その他・調整	365	513	392	-102	-3	-20	-12	-5
合計	2,049	2,500	2,350	1,725	371	400	430	436

(1) 2021予想: 会計方針の変更による売上高減少446億円。セグメントでは卸売・その他・調整IIに反映(p.2,14参照)  
 (2) 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。

64

## 中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)(2019年5月発表)- (B)

### 1. キャッシュフロー

(億円)

	2016-2018	2019-2021	2019-2021
	合計	合計(概数)	合計
	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計
営業CF	1,021	1,150	1,162
投資CF	-392	-450	-466
財務CF	-620	-750	-782
(うち株主還元)	-556	-700	-717
(うち借入金返済)	-64	-50	-56

	2019/3	2022/3	2022/3
	実績	現中計	予想
期末現預金残高	362	300	276
期末有利子負債残高	246	210	210

### 2. 設備投資、減価償却費、研究開発費、研究開発要員

(億円)

(人数)

	設備投資			減価償却費			研究開発費			研究開発要員	
	2016-2018	2019-2021	2019-2021	2016-2018	2019-2021	2019-2021	2016-2018	2019-2021	2019-2021	2020	2021
	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	実績	現中計
	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計		
化学品	66	147	124	52	94	70	16	14	10	5	10
機能性材料	189	178	121	167	170	138	243	267	220	190	210
農業化学品	83	82	161	44	55	77	126	148	135	90	95
医薬品	21	17	18	21	18	17	72	71	73	75	90
卸売・その他・調整	20	23	25	19	31	16	54	80	67	100	75
合計	379	447	449	303	368	318	511	580	505	460	480

65

## 2021中計と2021予想の差異

(億円)

		2021中計(A)	2021予想(B)	(B) - (A)	
化学品	売上高	431	346	-85	ファイン合計下ぶれ (下ぶれ) テビック一般・電材、環境化学品、ファインオキソ(化粧品向け)
	営業利益	51	24	-27	基礎合計下ぶれ (上ぶれ) 尿素・アドブルー (下ぶれ) メラミン国内・輸出、高純度硫酸、硝酸製品
機能性材料	売上高	751	758	+7	ディスプレイ合計上ぶれ (上ぶれ) 光IPS (下ぶれ) ラビングIPS、VA、TN、その他ディスプレイ材料
					半導体合計上ぶれ (上ぶれ) KrF、ArF、多層材料、EUV材料 (下ぶれ) 三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料
	営業利益	173	238	+65	無機合計下ぶれ (上ぶれ) スノーテックス一般 (下ぶれ) スノーテックス研磨、オルガノゾル・モノマーゾル、オイル&ガス材料
農業化学品	売上高	701	662	-39	(上ぶれ) ダイセン、クインテック、アルテア (下ぶれ) フルララネル、タルガ、ラウンドアップ(ML計画通り、AL下ぶれ)、パーミット、 グレーション、ライメイ
	営業利益	211	176	-35	売上高下ぶれ、固定費上ぶれ
医薬品	売上高	75	61	-14	創薬合計下ぶれ (上ぶれ) リバロ国内 (下ぶれ) リバロ輸出、一時金
	営業利益	7	3	-4	FT合計下ぶれ (下ぶれ) ジェネリック原薬、ペプチド受託生産
卸売・その他調整	売上高	392	-102	-494	卸売下ぶれ-65、その他国内子会社下ぶれ-15、 調整額計算-414(会計方針の変更による売上高減少-446を含む(p2, 14参照))
	営業利益	-12	-5	+7	卸売下ぶれ-1、その他国内子会社下ぶれ-1、調整額計算+9
合計	売上高	2,350	1,725	-625	
	営業利益	430	436	+6	

66

続いて、中期経営計画との比較でございます。これは 66 ページをご覧ください。

21 年度の予想と 21 年度の中計との比較となります。

(B) - (A) のところで化学品を見ていただきますと、営業利益についてはマイナス 27 億円、全体に売上が下ぶれたところが大きくなっております。中国品の影響であるとか、コロナの影響、そういったものについて当然予想できなかったというところです。

機能性材料につきましては、営業利益で見ますと、ディスプレイと半導体が非常に大きく計画比上ぶれております。光 IPS、それから半導体全般の上ぶれ。無機のところは大きく下ぶれる見込みです。これは大きな要因は、オイル&ガス材料が伸びていないということです。

農業化学品につきましては、営業利益でマイナス 35 億円の見込みです。こちらはダイセン、クインテック等の追加がございしますが、フルララネルの在庫調整が大きな要因です。

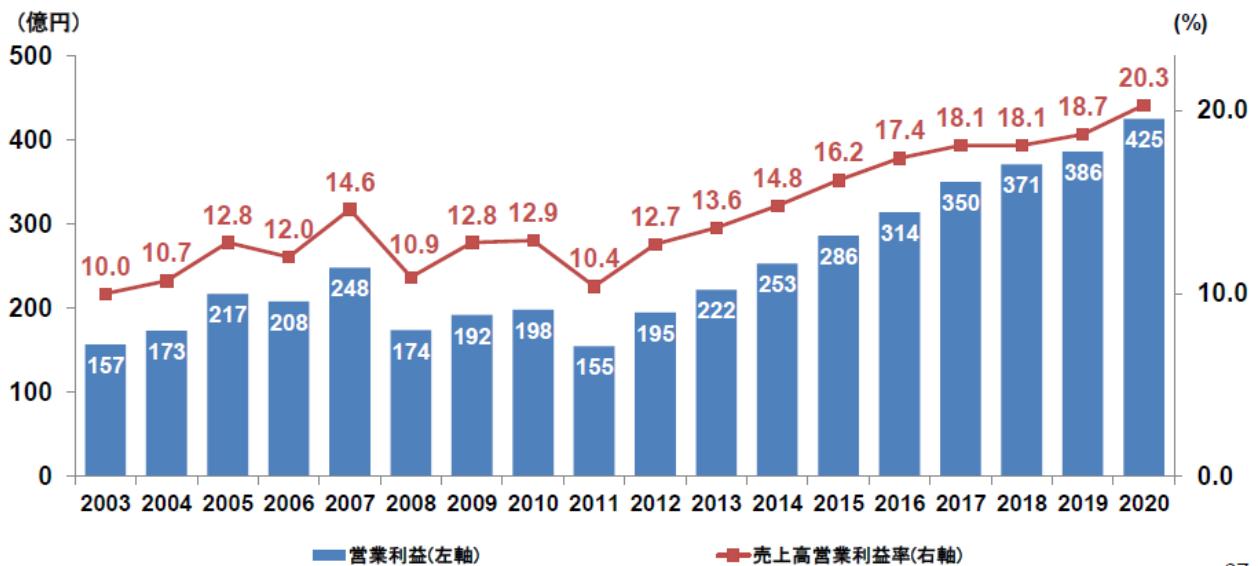
医薬品は、営業利益でマイナス 4 億円ですが、創薬は上ぶれまして、ファインテックはペプチドのところの受託生産がまだ始まっていないというところで、これがマイナス要因となっております。

全体では 6 億円のプラスということで。当社といたしますと、中計はコミットする計画です。夢物語ではございません。利益に色は付いていないわけではございまして、とにかく達成できる見通し

を今もってございます。

## 当社の特徴- (A) 売上高営業利益率

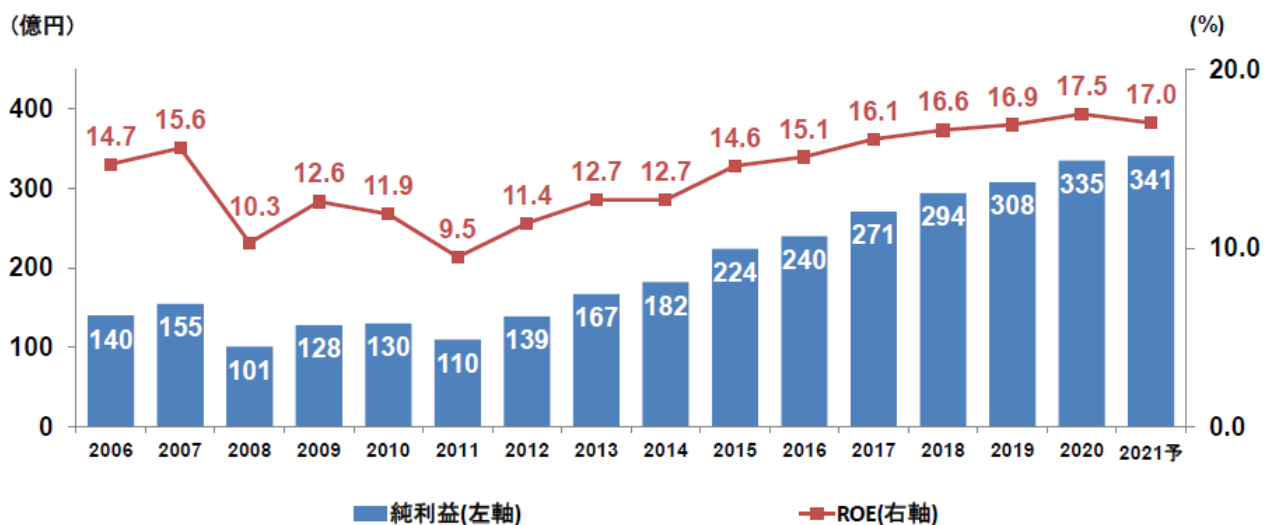
- ◆ 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持  
(2003年度以降18年連続10%以上)



67

## 当社の特徴- (B) ROE

- ◆ ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持が目標
- ◆ 2020年度実績は17.5%

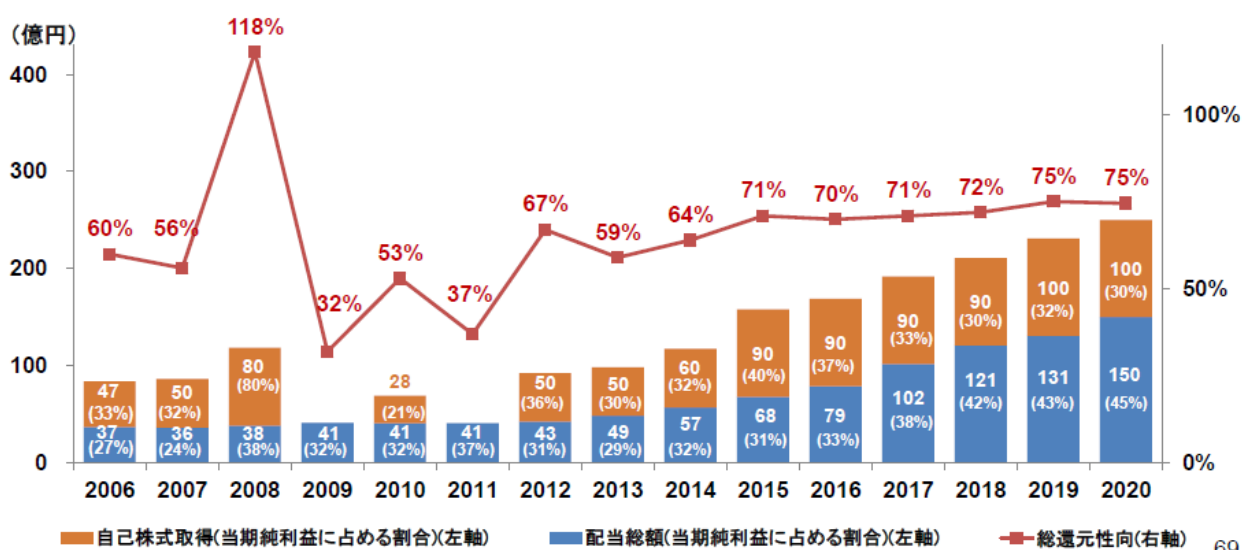


68



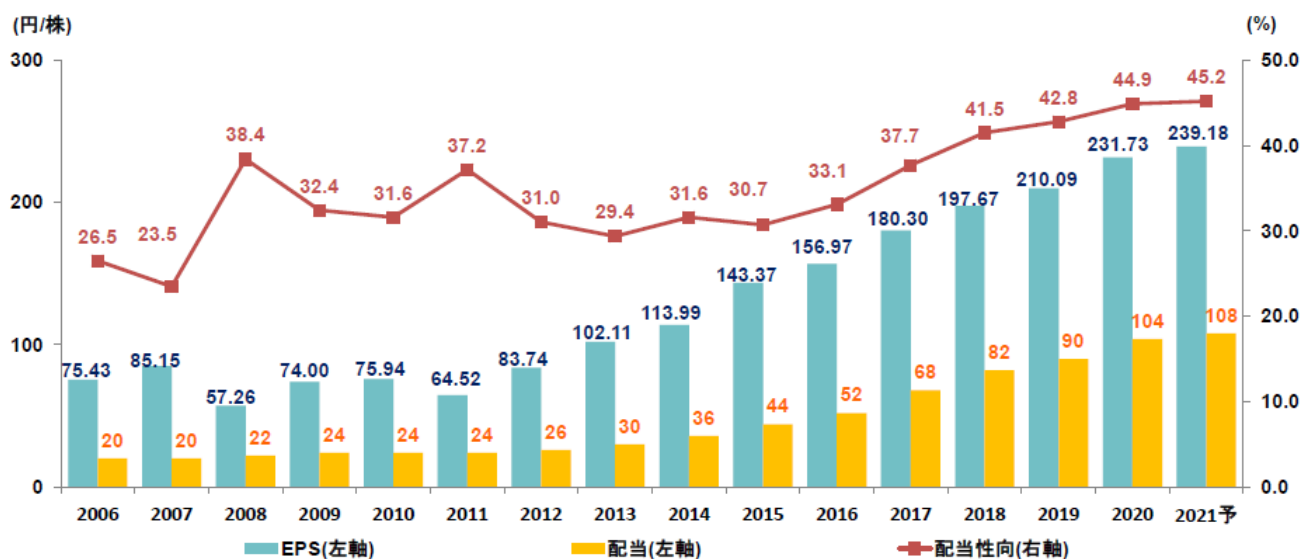
## 当社の特徴- (C)株主還元 (総還元性向)

- ◆ 配当と自己株式取得による株主の皆さまへの積極的な利益還元を実施
- ◆ 2016年度以降は、総還元性向70%維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標
- ◆ 2020年度実績は74.6%



## 当社の特徴- (D)株主還元 (配当性向)

- ◆ 2015年度30.7%から段階的に引き上げ
- ◆ 中計(2019-2021年度)では2019年度42.5%、2020年度以降45%が目標
- ◆ 2020年度実績は44.9%
- ◆ 2012年度以降2020年度まで9年連続増配



## 当社の特徴－(E)株主還元(自己株式取得)

- ◆ ROE向上を目的に2006年度より開始、2006-20年度取得総額925億円、4,271万株(取得開始前発行済株式の22.8%)
- ◆ 2006-20年度取得株はすべて消却済

**2006-2020年度 自己株式取得実績** (1)単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を除く  
(2)単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を含む

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
取得数(千株)(1)	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	42,715
取得価額(億円)(1)	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	925
自己株式消却数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	42,635
発行済株式数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	-
期末自己株式数(千株)(2)	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	-

\*2009年度、2011年度は自己株式取得なし

### ◆ 取得

年度	2018			2019			2020			2021
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	5月発表計画
自己株式取得総数(千株)(1)	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	-
取得価額総額(億円)(1)	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70
自己株式消却総数(千株)	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	1,000

### ◆ キャッシュマネジメント(単体ベース)

**目標現預金残高水準**  
 = 必要下限額 + 流動性リスク対応[1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)]  
 + 偶発リスク対応

71

67 ページ以降は当社の特徴を書いております。71 ページだけ触れさせていただきますと。

自己株式の取得ですが、20年度までで合計で4,271万株取得し、4,260万株を消却してございます。この株数は取得開始前の23%に相当する株数となります。

以上で私からの説明を終わらせていただきます。

## 社長挨拶

**司会：**次に、社長就任のごあいさつに先立ちまして、八木の経歴をご紹介します。

1962年生まれ、現在58歳です。

1985年、当社入社。

2016年、執行役員 袖ヶ浦工場長。

2018 年、常務執行役員 生産技術部長。

2020 年、取締役専務執行役員 生産技術部門統括 生産技術部長、化学品事業担当。

2021 年、代表取締役 取締役社長 COO に就任いたしました。

それでは、八木から皆様へごあいさつを申し上げます。

**八木：**皆さん、こんにちは。社長の八木晋介でございます。就任に当たり、ごあいさつを申し上げます。

紹介にございましたとおり、私は生産技術、モノづくりという立場から、当社グループの全事業分野に携わってまいりました。安心・安全操業、地球環境への配慮はもとより、競争力の源泉である製造プロセスの技術・設備の維持強化、経営資源を有効活用し競争力を高める投資計画の策定などを通じてグループの発展に努めてまいりました。

近年では、競争優位を確立し、事業環境の激しい変化に対応するため、工場のデジタル化を推進するなど、次世代型工場へのシフトを目指した取り組みを全工場に展開しております。

さらには競争が激化する中、生産と研究開発の関連性を見直し、新製品の早期創出に資する仕組みづくりを推進するなど、モノづくりの枠を超えて業務改革に取り組んできました。

そして、グローバルでの生産拠点の設立、生産プラントの新設・増強、研究設備の強化等、全ての事業のあらゆる投資案件に強い関わりを持ち、最先端の情報を把握した上で最適な計画を策定、実行してまいりました。

これらの全ての事業領域をカバーしてきた経験を基に、強い覚悟をもって社長という役割を果たし、会社運営に全力を注ぐとともに、当社グループのさらなる企業価値向上に挑戦してまいります。

さて、社長就任に当たり、当面の責務は 2 点あると考えております。

1 点目は、今年度が最終年度となる中期経営計画、Vista2021 を確実に仕上げることです。先ほどの決算説明のとおり、数値目標については着実に進捗しておりますが、立ち止まることなく諸施策を実行してまいります。そして、Vista2021 の経営指標である、ROE16%、総還元性向 75%を必ず達成すべく、邁進いたします。

2 点目は、次期中期経営計画および 2030 年のその先を見据え、視座を高めた新長期経営計画の編成に取り組むことでもあります。

当社グループの成長の鍵は、研究開発への経営資源重点投入による新たな成長エンジンの創出、新規事業・新製品・新技術の企画・探索・基盤事業の強化そして人材の育成であります。

今後1年をかけて温暖化対策や人口問題等、地球規模での変動、デジタル社会の到来、多様化が進む人の価値観など、社会貢献の意識を高め、変貌を遂げる未来を見据えた成長戦略を描き、より強固な事業ポートフォリオの確立を目指します。

また、SDGs、ESGを踏まえたCSR経営の積極的推進を図り、企業価値を高めるための施策を徹底的に追求することで、当社グループが将来進むべき道を定めてゆきます。

経営指標につきましては、現中計のROE16%、株主還元は総還元性向75%と、これら同等以上の水準を目指してまいります。

次期経営計画については、全てのステークホルダーに向けて、当社グループがどのような価値を提供していくかを開示し、ご説明していくことが重要だと考えております。

機関投資家、個人投資家の皆様に向けましては、決算説明会、個別面談、適時適切な情報開示等により、当社グループの正確な情報の発信に取り組んでおります。皆様からいただいたご意見、ご関心ごと等を踏まえ、経営に反映していくことで、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

これからも全てのステークホルダーの皆様との積極的な対話によって、社会から信頼される企業グループを実現していくため、グループの総力を挙げて取り組んでまいります。

皆様におかれましては、より一層のご意見、ご支援を賜りますようお願い申し上げて、ごあいさつといたします。

## 質疑応答

---

### <質問者 1>

**Q:** まず1点目、新社長にお伺いさせていただきます。今後、長期計画をおつくりになるということですけれども、日産化学の課題についてお考えを教えてください。

例えば、化学品の収益性が非常に低いとか、その辺の課題と今後取り組むべくポートフォリオ改革についてどうお考えなのかというのを、教えてくださいませんか。

**A:** 八木より回答申し上げます。

まず、化学品等につきましては収益性のことを深く織り込んで事業ポートフォリオを見直して、製品群の整理も含めて考えていくということに取り組んでまいります。

さらに、既存の事業分野の成長をもちろん深掘りして進めていきますけれども、新たに中期経営計画それから長期経営計画におきましては、新事業を何か取り入れることができないのかということ、これから1年かけて検討していくところでございます。

今、2030年以降を視座にした長期経営計画を策定するプロジェクト、若手が中心になって経営計画・ビジョンをつくっておりますので、これも踏まえて中期経営計画の策定に入っていくという計画で今進んでおります。

**Q:** 社長、ありがとうございました。

次に、動物用医薬品原薬フルララネルについて、ブラベクトの2021年1-3月の末端での売上高は相当大きく増えているみたいなのですが、そういう中でもやはり在庫調整が続く見通しなのでしょうか。

**A:** フルララネルの在庫調整の状況ですが、ブラベクトが末端でよく売れているというのはわれわれも把握しておりますが、メルクとの話し合いの中ではフルララネルの原薬の在庫状況については今のこの長期の見通し、2022年度まで在庫調整が続くという見通しを変えるという情報はもらっておりませんので、われわれは2022年度まで在庫調整が続くと理解した上で進めていこうということになります。

**Q:** フルララネルが2020年度実績では追加で原薬の注文があったとか、そういうところはなくて、やはり予想どおり落ちていっている、ということよろしいですね。

**A**：そうですね、ほぼそのとおりの動きになっています。

**Q**：わかりました。あともう1点。農業化学品全体について、2021年度の予想が売上高24億円増で営業利益6億円減ということですが、固定費の増加12億円の内容や、そのほかの減益要因があれば教えて下さい。

**A**：固定費増加12億円については、旅費、交通費、試験費等で、全て大きく増えるという前提になっております。それからフルララネルの在庫調整のインパクトも大きいです。ダイセンの増収などはあるのですけれども、今は利益面では減益という見通しになっています。

## <質問者2>

**Q**：八木新社長にまず1点目お伺いさせてください。今の御社の事業ポートフォリオという意味でいくと、機能性材料と農業化学品のウエイトがかなり大きいと感じています。

新しい事業の創出のために、例えばM&Aなどの手段をどのように考えておられるのか。全く御社と関わりがないところでのM&Aというのはかなり難しいかなと思うのですけれども、そのM&Aに対してのお考え方というのを教えて下さい。

**A**：八木より回答申し上げます。

M&Aに関しましては、M&Aのみを目的とするような取り組みは、あまり考えておりません。特に当社セグメントとの関連性の低い飛び地でのM&Aは、やはりリスクが高いので、考えておりません。

今の中期経営計画、それから長期経営計画の中で、どういう分野でわれわれの技術と人、資源が生かせるのかをしっかりと検討したうえで、その分野への参入ツールとしてM&Aやアライアンスを取り入れていきたいと考えております。

**Q**：そうしますと事業ポートフォリオとしては、今のポートフォリオを大きく次の中計の中で変えるということは、あまりお考えにはなられていないということでしょうか。

**A**：いいえ、そうではなく、今のわれわれの技術やセグメントが派生して通じるような、そういうビジネス、あるいはそういう領域のところがあれば、それも取り入れていきたいという考えであります。

**Q**：社長、ありがとうございました。

次に、サンエバーについて教えてください。VA モードの売上高について、説明会資料 40 ページを見ますと、20 年度実績がマイナス桁%に対して、21 年度予想がプラス桁%となっていますが、この動きについてご解説いただけますか。

**A：**VA につきましては、20 年度は当社品を採用いただいている一部顧客での稼働減の影響でマイナスに転じております。一方 21 年度につきましては、顧客での増強ラインの本格稼働等でプラスに転じるという計画で今考えております。

### <質問者 3>

**Q：**まず 1 問目は動物薬原体フルララネルについて。説明会資料の 48 ページで、現状では 22 年度まで在庫調整による減収が続くというシナリオを変える要因がないという説明がありましたが、メルク社だけでなく他の動物薬メーカーの売上も伸びてきており、前年と比較して環境が変わってきているという印象です。御社として現状シナリオを変える要因がないことに何か違和感はないのでしょうか。なぜこれを変えないのかの根拠としてはメルクからの追加発注がないから、ということに尽きるのか。このあたりをもう少し詳細を教えてください。

**A：**メルクとの打ち合わせの中では、当然ブラベクトの末端の売上動向についても聞いていますが、在庫についてはまだ十分あるということです。そのため当社としては自分たちでシナリオを変えることはとてもできないということです。

**Q：**もともと 3 年間、在庫調整が続く見方をされていたので、足元でこれだけブラベクトが売れていてもまだ在庫は当然十分あるのかなと思うのですが、その在庫調整が終わる時期だとか、もしくはその幅だとかマイルドになる可能性はないのでしょうか。

**A：**そこも今変えないと言われているので、それを乗り越えてわれわれが想定することはとてもできないので、現状で考えるしかないということですね。これはメルクとの打ち合わせが定期的に行われますので、今後進展を見るしかないです。

**Q：**なるほど、わかりました。御社の社内分析としてはもう少し減るペースが速くなりそうだとかそういったご感触も特にないのだと。

**A：**それもないですね。このぐらいのペースかなと思っています。

**Q：**それはなぜですか。これだけ 1 年前と比べて明らかに環境が変わってきているのに、そのように分析されているのはなぜですか。

**A**：やはりもともとの在庫がすごく大きかったということです。

**Q**：なるほど。その在庫がもともとかなり大きかったことは理解しているのですが、ただその1年前に比べると外部環境としてはかなり変化してきているので、そうすると在庫調整の終了時期という見通しは変わらないのですかね。

**A**：そこも変えるようなファクターは見ていないですね。わかりました。

**Q**：2問目ですが、化学品の新年度の見通しについて、説明会資料の33ページを見ますと環境化学品が21度プラス24%と強い伸びをご計画されています。この背景を教えてください。

**A**：環境化学品が増えていく要因としては、ご承知のとおりシアヌル酸（CA）の増強工事が昨年12月に完了しております。併せて今年の3月でその荷造り設備までが完了して、ここからこのシアヌル酸という製品と、それからシアヌル酸を原料にするいわゆるハイライト（塩素化シアヌル酸）の増販をかけていく予定になっています。

これらの用途について、国内プールなどは厳しいのですが、アメリカなどの個人向けプールでは既に増加傾向にございます。

併せて、コロナの消毒用途で消毒剤の増加を見込んでいます。

**A**：シアヌル酸についてさらに補足しますと、説明会資料32ページにマテリアルフローがございまして、シアヌル酸も記載しています。シアヌル酸は尿素などを原料に製造され、ハイライトの原料になるものですが、当社は国内唯一のシアヌル酸のメーカーとして、社内でハイライト製造に使用するとともに、他社のハイライト向け原料として供給しています。この他社向け供給の売上も増えると見込んでいます。

**Q**：よくわかりました。次にメラミンについて教えてください。21年度はプラス4%の増収にとどまるご計画になっていますが、直近ではかなり市況が上がってきているようです。その中でこのプラス4%というのは少し保守的にも感じるのですが、このあたりの背景をもう少し教えていただけますか。

**A**：メラミンについては昨年4Qぐらいから価格も持ち直して、今増加傾向にあるのですが、メラミンの中国競合での生産余力は非常に大きいため、価格がポジティブな方向で継続して推移していくという予測は立てづらく、ここは慎重な数字で見ているというのが現状です。



#### <質問者 4>

**Q:** フルララネルの在庫調整について、もともと動物用医薬品市場の成長率をどれぐらいで想定されていたか教えて下さい。何となく1桁半ばパーセント程度と思っていたのですが、違和感ないでしょうか。

それから在庫調整が22年度まで続くということですが、22年度の前半か後半かで言うとどちらの印象でしょうか。

**A:** 動物薬の伸びについては、おっしゃったような1桁半ばパーセントのイメージだったと思います。

在庫調整が22年度のいつまでかというのは難しいです。メルクの本薬の発注というのはその年によって時期がぶれるので、上期か下期かというのはなかなか言いがたいです。

**Q:** 半導体材料について、直近1年ぐらいで半導体のサプライチェーンのデカップリングの動きですね、特にアジア以外でのサプライチェーンの重要性が今後増してくる可能性があるのかなと感じています。その点に関して御社、アジアの販売がメインとなっているわけですが、ここについて中長期的にリスクになり得るのか教えて下さい。

**A:** われわれの材料は、特に先端の半導体を製造するのに多くご使用いただいております、やはり技術的には台湾、韓国がほかのエリアをリードしている状況ですので、直近大きな変化があるとは見込んでおりません。

#### <質問者 5>

**Q:** 固定費の考え方を教えてください。機能性材料の固定費に関しては、20年度は期初9億円の増加と見ていたのが、コロナの影響もあるのでしょうかけれども、結果マイナスの18億円となっています。

あと農業化学品のところも、20年度期初は14億円増で見ていたのが、結局3億円の増にとどまっていると思います。

21年度も計画では機能性で固定費16億円増加と、農業化学品で12億円増加と見ておられますが、この確度について教えて下さい。

**A：**それぞれ 21 年度下期からコロナの影響がなくなり、出張などの人の動きが正常化するという前提で見えています。加えて 20 年度に試験費等で下ぶれがありましたが、こちらが戻ってくると見えています。そんなところが大きな要因です。固定費の増加は大きめには見えていると思います。

**Q：**この機能性の 16 億円と農業化学品の 12 億円の固定費増加は、コロナがある程度収束することを前提に、下期から増えてくるような感じですか。

**A：**試験費の増加もありますので、上期にも増加を見えています。

**Q：**わかりました。次に農業化学品のグレースシアについて。去年は、長雨の影響等もあって振るわなかったのですが、21 年度計画の+20%というのは、基本的には天候不順さえなければ、達成できそうな計画なのでしょうか。

例えば昨年あまり使わなかった分、在庫が残っていて、結局今年もあまり使いませんでした、ということにはならないのか。その辺りについて教えてください。

**A：**グレースシアに関しましては、去年は確かに天候不順などの外部要因によって予想をかなり下回る実績でございました。加えてご指摘頂いた通り、年初から割と流通在庫が残っているような状況で走っております。

ただし、この剤に関しましては害虫の発生、あるいは天候要因に大きく左右される剤と考えておりました。通常のターゲットとする害虫の発生がありますと、今回計画しました数字は達成できると見ております。

また、流通在庫におきましても比較的順調に、はけつつございますので、通常の害虫発生であれば達成できる見通しとご理解ください。

**Q：**ちなみにグレースシアの日本と韓国のウエイトはどんな感じですか。

**A：**ウエイトに関しましては圧倒的に日本のほうが多いということになります。

#### <質問者 6>

**Q：**決算説明会資料の 44 ページのところで、ライメイの売上高が 20 年度 20%増収、21 年度予想でも 22%増収とかなり強い伸びで計画されています。21 年度の増収計画の背景について、今期は欧州での混合剤の貢献もあるのでしょうか。もう少し補足説明をお願いします。

**A：**今期計画のライメイの伸びに関しましては、海外での混合剤の拡販を見込んでおり、+22%増収という計画でございます。

<質問者 7>

**Q**：半導体材料について、20年度実績の4Qは、3Qよりも売上高が減っているように見えるのですが、この動きについてご解説をお願いします。

**A**：確かに3Q、4QのQoQですと4Qのほうが少し弱かったというのは事実であります。

ただし、市場自体が悪くなったとか、われわれのシェアが落ちたということではなく、出荷のタイミングずれで、20年度の3Qに前倒しでお客様から在庫が欲しいというお話があったのと、生産スケジュールの都合で3月から4月に出荷がずれたといったところで、数字が小さく見えています。

**Q**：なるほど。それと中国のスマホがやや弱いという話が巷でありますけれども。半導体あるいはディスプレイに対しての影響等についてはあまりなさそうでしょうか。

**A**：半導体につきましては、半導体を直接製造しているようなメーカーとはまた異なり、半導体チップを買ってスマートフォンをつくっているといったかたちになりますので、半導体メーカーの稼働が落ちるとか、そういったことはございません。

**Q**：ディスプレイサイドはどうでしょう。

**A**：中国のスマホにつきましては、基本的に大きな影響はないと見ています。若干の下ぶれがあったとしても、基本的にはその他のアプリケーションへの生産転換による稼働維持という中で、当社への売上影響はないと見ております。

以上